

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第292集

周防畑遺跡群

一ツ長田遺跡 I

長野県佐久市長土呂 一ツ長田遺跡 I 発掘調査報告書

2023.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第292集

周防畑遺跡群

一ツ長田遺跡 I

長野県佐久市長土呂 一ツ長田遺跡 I 発掘調査報告書

2023.3

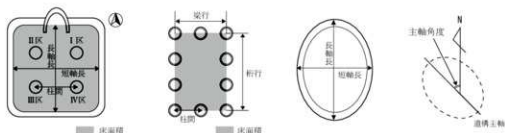
佐久市教育委員会

例言

- 1 本書は有限会社田園不動産による宅地造成工事に伴う周防畑遺跡群一ツ長田遺跡Ⅰの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 有限会社田園不動産
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 周防畑遺跡群 一ツ長田遺跡Ⅰ (NSHⅠ)
長野県佐久市長土呂字一ツ長田 1729-3 地
- 5 調査期間及び面積 発掘調査期間：令和3年4月1日～令和3年5月13日
整理作業期間：令和3年5月14日～令和5年3月
面積：420 m²
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。

凡例

- 1 遺構の略称は次のとおりである。
H—堅穴住居址 Ta—堅穴状土坑 F—掘立柱建物址 D—土坑 M—溝址 P—ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下の値である。



- 4 スクリーントーン表示は以下のとおりである。

遺構図



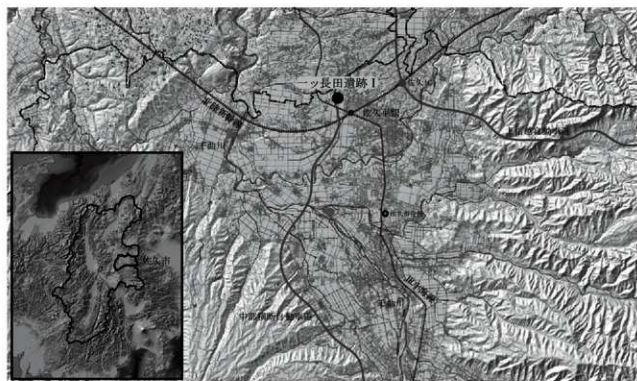
遺物図



- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺1/4で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 遺構計測表及び遺物観察表における()は推定値を、〈 〉は残存値を示す。
- 8 第1図は、地理院タイルの色別標高図及び陰影起伏図、国土数値情報(行政区画データ)を基に作成した。

目 次

第Ⅰ章	発掘調査の経緯	1
第1節	調査にいたる経緯	1
第2節	調査組織	1
第3節	調査日誌	1
第Ⅱ章	遺跡の位置と環境	2
第1節	遺跡の環境	2
第2節	調査方法	3
第Ⅲ章	遺構と遺物	4
第1節	竪穴住居址	4
第2節	掘立柱建物址	22
第3節	竪穴状遺構	23
第4節	土坑	24
第5節	溝址	26
第6節	ピット	26
第7節	遺構外出土遺物	26
第Ⅳ章	まとめ	41



第1図 一ツ長田遺跡1位置図

第1章 発掘調査の経緯

第1節 調査にいたる経緯

周防畑遺跡群は、佐久市北部の長土呂地籍に所在する縄文時代から平安時代までの複合遺跡である。今回、遺跡内で有限会社田園不動産による宅地造成工事が計画されたことにより、対象地2,714㎡について遺構の確認調査を実施した。その結果、対象地全域に弥生時代後期から中世の遺構が分布することが確認され、保護協議の結果、道路建設部分と浸透施設建設部分について、遺構の記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

第2節 調査組織

調査主体者

佐久市教育委員会 教育局 教育長 楠澤 晴樹（～令和3年5月） 吉岡 道明（令和3年5月～）

社会教育部長
文化振興課長
文化振興課企画幹
文化財調査係長
文化財調査係

土屋 孝
平林 照義（令和3年度） 中沢 栄二（令和4年度）
谷津 和彦（令和3年度） 井上 剛（令和4年度）
山本 秀典（令和3年度・令和4年7月～） 伊澤 信子（令和4年4月～6月）
富沢 一明 上原 学 羽毛田 卓也（～令和3年度） 小林 真寿
久保 浩一郎 松下 友樹（令和4年度～）

調査担当者
調査員

久保 浩一郎
赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 池野 麻丈 大矢 志藝 桐原 久人
小池 長信 清水 律子 田中ひさ子 中澤 登 仲田 恵利花 比田井 久美子
堀籠 まゆみ 堀籠 保子 森泉 文恵 森泉 美由起 柳澤 孝子 横尾 敏雄
依田 好行

第3節 調査日誌

令和2年11月20日	有限会社田園不動産より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出を受理。
12月22・23日	対象地2,714㎡の遺構確認調査を実施し、全域で堅穴住居址等を確認する。保護協議の結果、対象地中央の道路建設範囲と、浸透施設建設範囲について、記録保存のための本調査を実施することとなる。
令和3年4月1日	有限会社田園不動産と佐久市教育委員会との発掘調査業務契約を締結し、道路及び浸透施設部分の本調査を開始する。
5月13日	現場での発掘調査を終了し、室内整理作業を開始する。
令和4年4月1日	令和4年度の業務契約を締結し、報告書作成作業を開始する。
令和5年3月	発掘調査報告書を刊行し業務を終了する。

第4節 遺構・遺物の概要

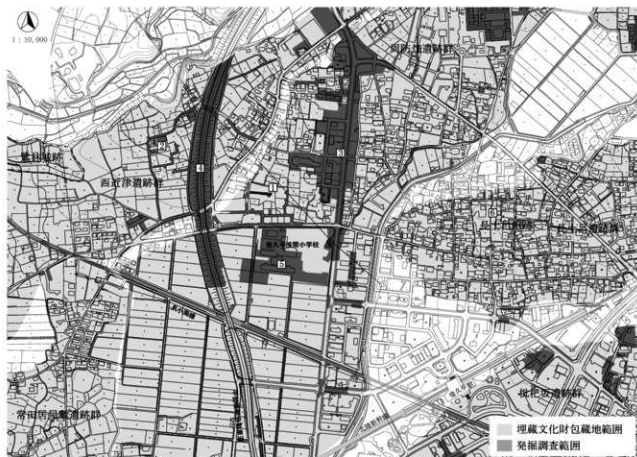
遺構	堅穴住居址20軒（弥生時代後期～平安時代）、掘立柱建物跡1棟、堅穴状遺構3基、土坑6基（井戸址1基）、溝址1条、ビット166基
遺物	縄文土器、弥生土器、土師器・須恵器（古墳時代～平安時代）、灰釉陶器、緑釉陶器、土製品、石器、石製品、鉄製品

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

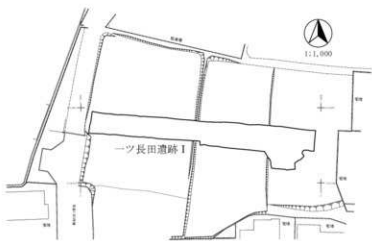
第Ⅰ節 遺跡の環境

佐久市は長野県の中央東端、四方を山地に囲まれた標高約700mの盆地内に位置し、北方には現在も噴煙を上げる浅間山を望むことができる。本遺跡が位置する佐久市北部は、浅間山の火山堆積物が厚く堆積しており、この堆積物が河川の侵食を受けて箱型の台地が形成された、いわゆる「田切り」地形が特徴である。周防畑遺跡群はこの「田切り」台地上に立地する弥生時代から中世までの複合遺跡であり、北陸新幹線佐久平駅の開業や佐久平浅間小学校開校を契機とする区画整理事業や宅地化に伴う発掘調査が行われてきた。

本遺跡周辺の歴史的変遷を概観すると、西近津遺跡Ⅶ(2)で縄文時代後期の埋甕や土偶、石棒などが出土している。宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他(3)、西近津遺跡群(4 県埋文センター調査)、大豆田遺跡Ⅳ(5)等では弥生時代後期の集落跡が検出され、周溝墓や大型の堅穴住居址などの遺構の他、多様な遺物が出土しており、大規模な集落が形成されていたことがわかる。本遺跡もこの時期に形成された集落の一部と考えられる。古墳時代になると集落が縮小し、検出される住居址もわずかである。奈良時代になると集落は再び台地上に広く展開し、平安時代に続く。銅印や瓦といった特殊な遺物が出土しており、周辺に寺院の存在も想定される。中世になると集落景観は不明瞭となるが、堅穴状遺構や溝址、井戸址などが検出されている。本遺跡東方には長土呂館跡(6)等も存在するため、なんらかの開発は行われていたものと考えられる。



第2図 周辺の発掘調査区

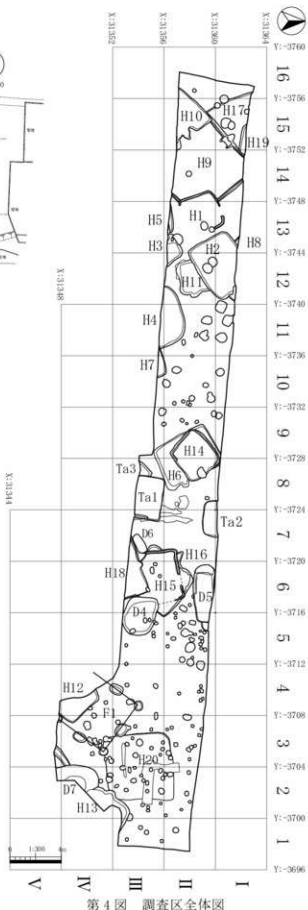


第3図 調査区位置図と調査前風景

第2節 調査方法

遺構確認面までの表土は重機で掘削した。調査区周辺は耕作による削平・かく乱を受けており、遺構確認面は地山ローム層上面である。表土除去後、国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅷ系を基点とするグリッド杭を調査区内に打設した。杭は調査区北東の X=31364、Y=-3696 を起点として 4m 間隔で打設し、ローマ数字と算用数字の組合せによりグリッド名を付した（北東から I 1、I 2・・・）。

グリッド設定後は遺構検出を行い、検出順に遺構名を付した。遺構外出土遺物はグリッド毎に取上げた。遺構図面作成はグリッド杭を用いた簡易遺方測量及びトータルステーションを用いて行った。現場での記録写真はデジタル一眼レフカメラ（LAW・JPEG）と 35mm 一眼レフカメラ（カラーリバーサル）を用いて撮影した。現場終了後は、佐久市文化財事務所にて整理・報告書作成作業を行った。遺物写真撮影にはデジタル一眼レフカメラを用い、本書は、Adobe 社の Illustrator、Photoshop、Indesign を用いて編集、執筆した。



第4図 調査区全体図

第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址

H1号住居址（第5図）

I 13～II 14グリットで検出され、P2・P3より古く、H9号住居址より新しい。カマドと側壁は削平されており、床面と壁溝のみの検出である。南北2.99m、東西3.00m、床面積8.97㎡、主軸N-70°-Eを測る方形の住居址である。床面は硬質で、4基のピットが確認された。カマドは東側中央南寄りに位置したと考えられ、焼土や礫が検出された。貼床の厚さは15cm程度である。

遺物は土師器、須恵器、が出土した。1は土師器の皿と考えられる。2～9は土師器の坏で、7～9は内面黒色処理が施され、4～6には内面に暗文、4・9には外面に墨書がみられる。4の墨書は「泉」と考えられる。10・11須恵器の坏、12・13は土師器の碗である。14～17は土師器の甕で、16のみロクロ成形である。これらの出土遺物から本址は9世紀代の所産と考えられる。

H2号住居址（第6・7図）

I 12～II 13グリットで検出され、D1・D2号土坑より古く、H8・H11号住居址より新しい。北東側が調査区外に延びるが、長軸4.35m、短軸3.34m、床面積14.53㎡を測る。検出面から床面までの深さは0.41m、主軸はN-60°-Eである。住居床面は硬質で、ピット3基が検出された。P1・P2が柱穴と考えられる。カマドは東側中央に位置すると考えられ、焼土が検出された。貼床は10～25cm程度の厚さが確認できる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器等が出土した。1～15は土師器の坏で、5～15には内面黒色処理が施されるが12は内面が磨耗している。16～21は土師器の碗で、19以外内面黒色処理が施される。16は吉祥・呪術的な特殊字形とみられる。4は外面に「万」の刻書が施される。7・8・15・17も外面に墨書される。22～28は土師器の甕で、23・24・26・27はロクロ成形である。26・27は直立する口縁部を強くナデて外反する。29～35は須恵器である。29は蓋、30・31は坏、32～35は甕と考えられる。36～38は灰釉陶器である。39は磨石、40は敲石である。41～47は鉄製品で、41・42は刀子、44・45は角釘、46は角軸、48は鉄滓と考えられる。これらの出土遺物から、本址は10世紀代の所産と考えられる。

H3号住居址（第8図）

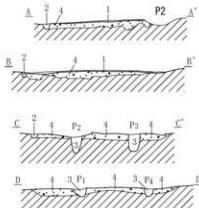
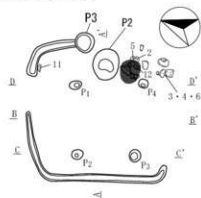
I 12・13グリットで検出され、P1より古く、H5号住居址より新しい。住居址北東部分のみの検出であるため全容は不明だが、検出面から床面までの深さは0.48m、主軸はW-40°-Nを測る。床面は硬質で、北側中央にカマドを有する。貼床は10cm程度の厚さが確認できる。

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土した。1は土師器の坏、2は土師器の甕、3～6は須恵器の坏、7は須恵器の蓋である。8・9は軽石製品で、8は砥石で全面が使用されている。9はカマド支脚石である。これらの遺物から本址は8世紀の所産と考えられる。

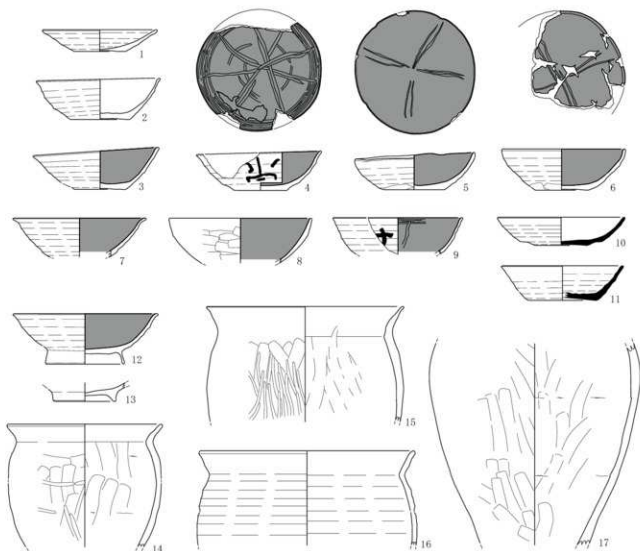
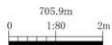
H4号住居址（第9図）

II 11・12グリットで検出され、H7号住居址より古い。住居址北側のみであるため全容は不明だが、南北2.35m以上、東西4.28m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.44m、主軸はW-18°-Nである。床面上からは炭化材及び炭化物が検出されている。床は硬質で、ピット3基と炉跡が検出された。

H1号住居址平面図

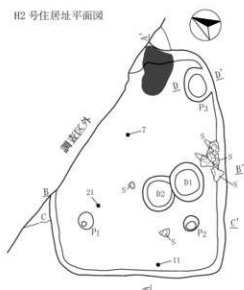


- 1 灰黄褐色土 10YR4/2
 - 2 暗褐色土 10YR3/3
 - 3 黒褐色土 10YR3/1
 - 4 褐灰色土 10YR4/1
- しまり弱
ロームブロック含む

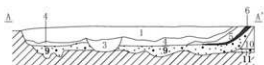
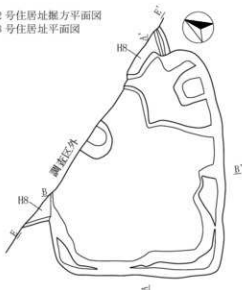


第5図 H1号住居址遺構図・遺物図

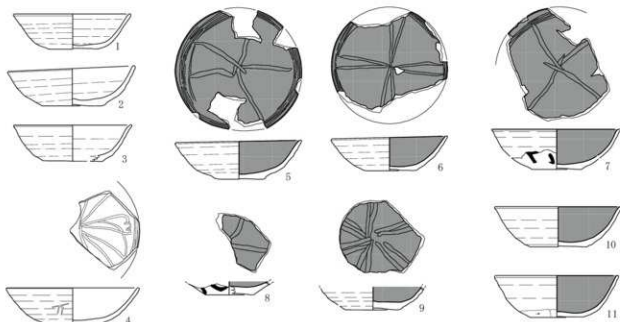
H2号住居址平面図



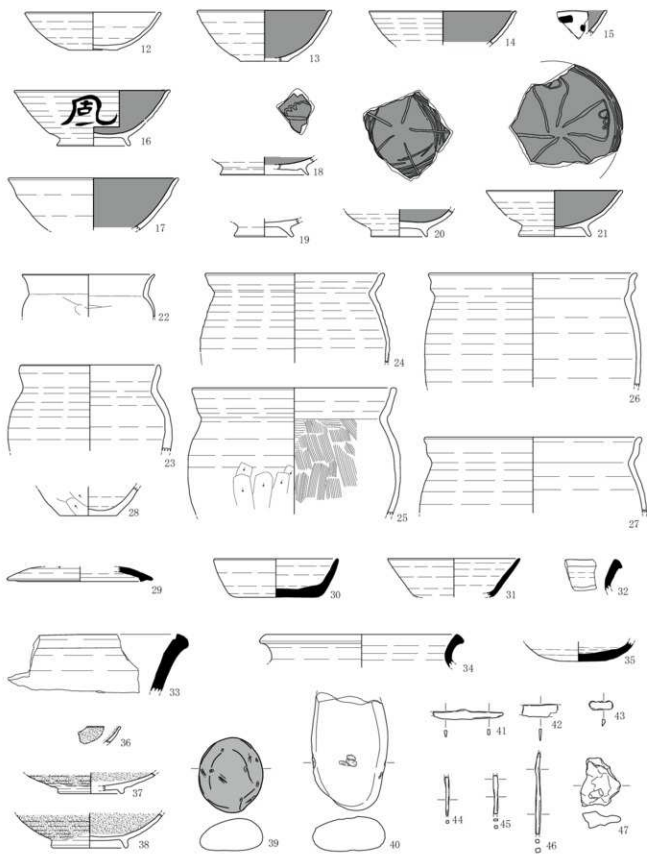
H2号住居址掘方平面図
H8号住居址平面図



- 1 灰黄褐色土 10TR4/2 黒褐色土ブロック少量含む。
- 2 灰黄褐色土 10TR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- D1 埋土 3 灰黄褐色土 10TR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- D2 埋土 4 褐灰色土 10TR4/1 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 5 黒色土 10TR2/1 炭化物多量、灰色粘土含む。
- 6 褐灰色土 10TR4/1 橙色の境土多量含む。
- 7 褐灰色土 10TR4/1 しまり洞 ロームブロック少量含む。
- 8 黒褐色土 10TR3/1 炭化物含む。
- 9 10TR3/3 暗褐色土 粘土 しまり洞 ロームブロック多量含む。
- HS 埋土 10 暗褐色土 10TR3/3 黄褐色土ブロック含む。
- 11 暗褐色土 10TR3/3 粘土 ロームブロック多量含む。

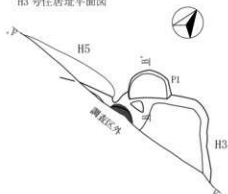


第6図 H2・H8号住居址遺構図・H2号住居址遺物図1



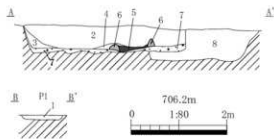
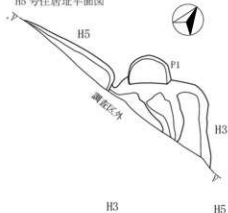
第7图 H2号住居址遺物图2

H3 号住居址平面図



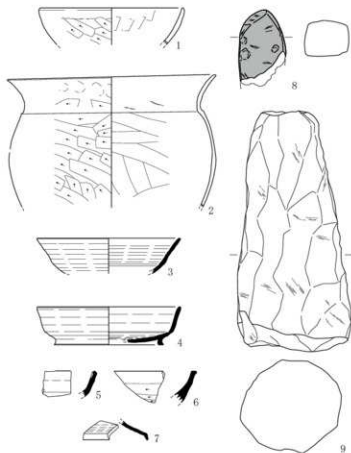
H3 号住居址掘方平面図

H5 号住居址平面図



- P1 埋土 1 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック少量含む。
 H3 埋土 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
 3 褐灰色土 10YR4/1 ロームブロック含む。
 4 褐灰色粘質土 10YR5/1 焼土ブロック・炭化物含む。
 5 黒褐色土 10YR3/1 焼土・炭化物多量含む。
 6 褐灰色粘土 10YR6/1 しまり堆カマド
 7 暗褐色土 10YR3/3 壘方、ロームブロック多量含む。
 H5 埋土 8 黒褐色土 10YR3/1

H3 号住居址出土遺物



第 8 図 H3・H5 号住居址遺構図・H3 号住居址遺物図

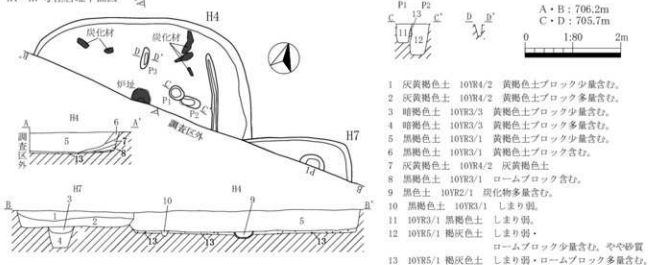
P1 が柱穴と考えられる。貼床は 5 cm の厚さが確認できる。

遺物は弥生土器と石器が出土した。1・2 は甕、3 は炉に使われた壺である。4 は用途不明の結晶質石灰岩の原石である。5 は磨石である。出土遺物から弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

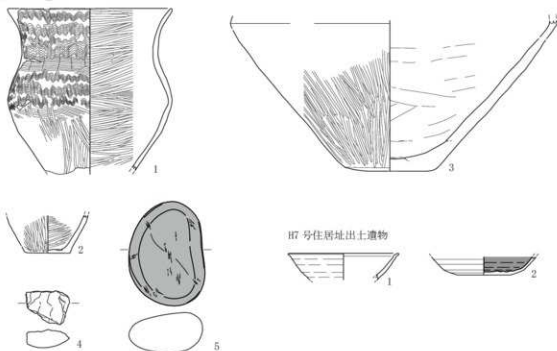
H5 号住居址 (第 8 図)

II 13 グリットで検出され、H3 号住居址より古い。住居址北東端部のみの検出であるため全容は不明だが、検出面から底面までの深さは 0.60m を測る。硬質な床は確認できなかったが、掘込みの形状や埋土の特徴から弥生時代の住居址と考えられる。遺物は図化できないが弥生土器の壺破片が出土している。

H4・H7号住居址平面図



H4号住居址出土遺物



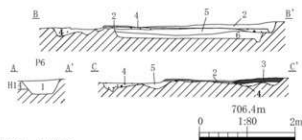
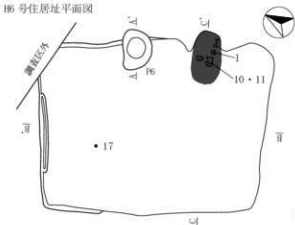
第9図 H4・H7号住居址遺構図・遺物図

H6号住居址 (第10図)

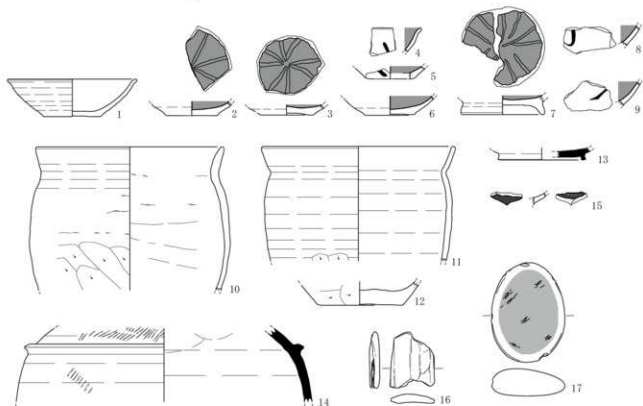
I 8～III 9グリッドで検出され、P6より古く、H14号住居址より新しい。長軸4.59m、短軸3.63m、床面積16.66㎡を測る長方形の住居址である。検出面から床面までの深さは0.13mで、側壁はほぼ削平されている。主軸はW-27° - Nである。住居床面は硬質で、北側の壁溝が検出された。カマドは東側中央南寄りに位置し、焼土が検出された。貼床は7cm程度の厚さが確認できる。

遺物は土師器、須恵器、緑釉陶器、石器が出土した。1～12は土師器で、1～6が坏、7が碗、8・9は坏ないし碗である。2～9は内面黒色処理が施され、2・3・7は暗文が施される。4・5・8・9には外面に墨書が認められる。10～12は甕で、10・11はロクロ成形である。13は須恵器有台坏、14は

H6 号住居址平面図



- PG 1 黒褐色土 10YR3/1
 H6 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
 3 暗褐色土 10YR3/3 粘土ブロック、焼土ブロック含む。
 4 灰黄褐色土 10YR4/2 貼床、一部硬質面残存。ロームブロック多量含む。
 5 灰黄褐色土 10YR4/2
 H14 6 黒褐色土 10YR3/1 灰黄褐色土ブロック含む。



第10図 H6 号住居址遺構図・遺物図

須恵器の壺で、肩部に突帯を有する。15は緑軸陶器の碗と考えられる。16は板状の緑色片岩で、側面に研磨痕が見られる。17は磨石である。出土遺物から本址は9世紀後半から10世紀の所産と考えられる。

H7 号住居址 (第9図)

III 10 グリットで検出され、H4 号住居址より新しい。住居址北東部のみの検出であり全容は不明だが、検出面から床面までの深さは0.31mを測る。硬質な床面は確認されないが、ピット1基が検出された。遺物は土師器が出土している。いずれも坏で、2は内面黒色処理が施される。8世紀以降の所産と考えられる。

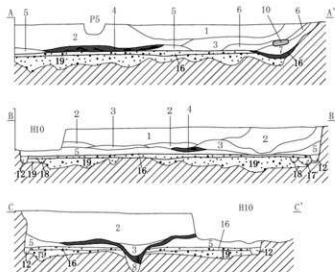
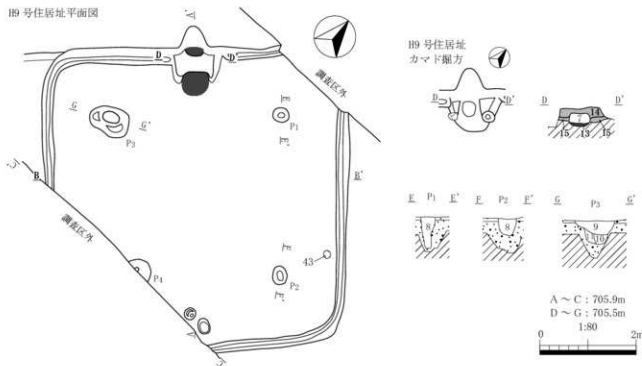
H8号住居址（第6図）

I 12・13グリットで検出され、H2号住居址より古い。南西部をH2号住居址に破壊される形で検出され、北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、断面形状と埋土の特徴から住居址とした。遺物が出土していないため帰属時期は不明である。

H9号住居址（第11～13図）

I 14～II 15グリットで検出され、H17・H19号住居址より新しく、P5・H10号住居址より古い。北東端及び南西側が調査区外に延びるが、長軸5.85m、短軸5.79m、床面積33.87㎡を測る方形の住居

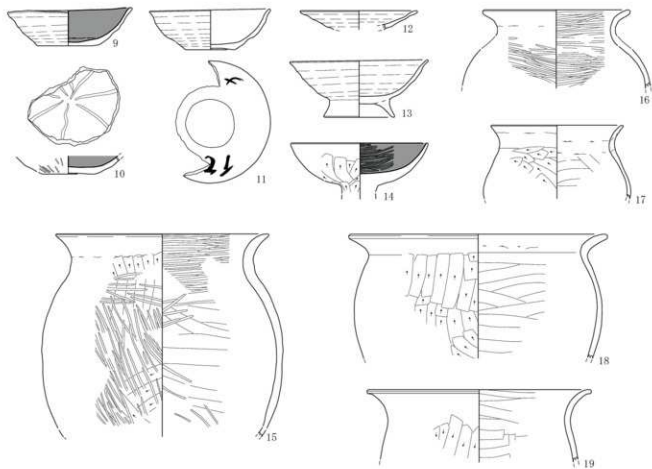
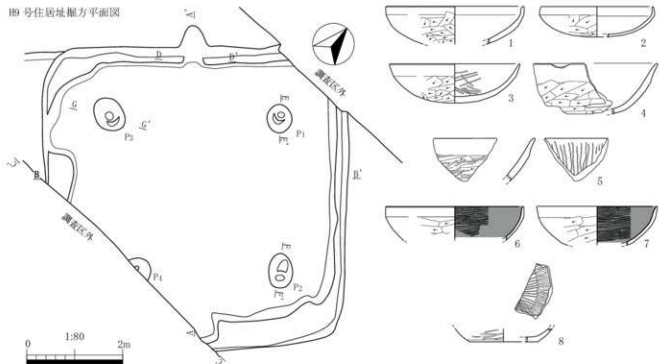
H9号住居址平面図



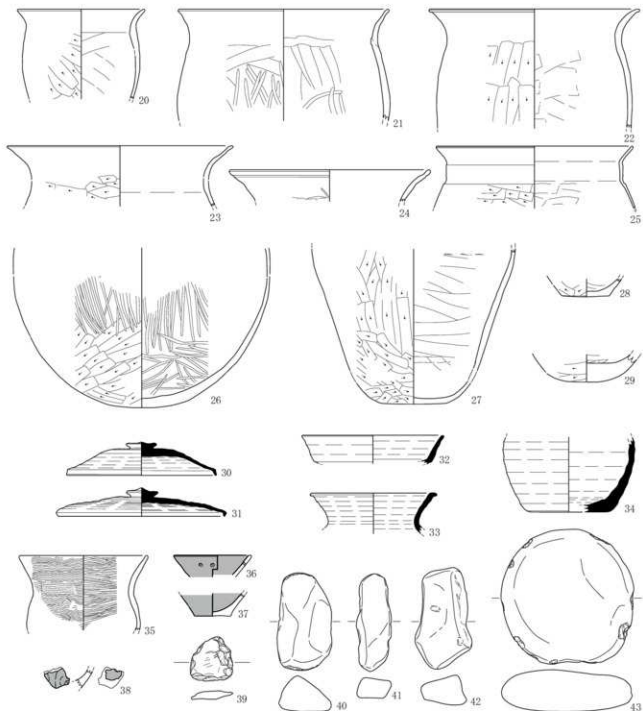
- 1 灰黄褐色土 10YR 4/2 黄褐色土ブロック少量含む。
- 2 灰黄褐色土 10YR 4/2 黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 暗褐色土 10YR 3/3 黄褐色土ブロック・焼土ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 10YR 3/3 炭化材多量含む。
- 5 黒褐色土 10YR 3/1
- 6 暗褐色土 10YR 3/3 焼土・炭化物・黒色土ブロック少量含む。
- 7 褐灰色土 10YR 4/1 焼土多量・灰多量含む。
- 8 黒褐色土 10YR3/1 しまり弱。
- 9 暗褐色土 10YR 3/3 しまり弱。
- 10 暗褐色土 10YR 3/3 ロームブロック含む。
- 11 暗褐色土 10YR 3/3 ロームブロック多量含む。
- 12 黒褐色土 10YR 3/1 ロームブロック含む。
- 13 棕色土 2.5R 6/6 焼土層
- 14 褐灰色粘土 10YR 6/1 しまり強い。黒色土・ぶい・棕色土含む。
- 15 浅黄褐色粘土 10YR 8/3 しまり強い。棕色土・黒色土含む。
- 16 黒色土 10YR 2/1 しまり強い。粘土、ロームブロック少量含む。
- 17 黒色土 10YR 2/1 しまりやや強い。ロームブロック含む。
- 18 褐灰色土 10YR 4/1 しまり弱い。堅溝、ロームブロック含む。
- 19 黒色土 10YR 2/1 しまり強い。粘土、ロームブロック多量含む。

第11図 H9号住居址遺構図

H9 号住居址掘方平面图



第12图 H9号住居址遺構図2・遺物図1

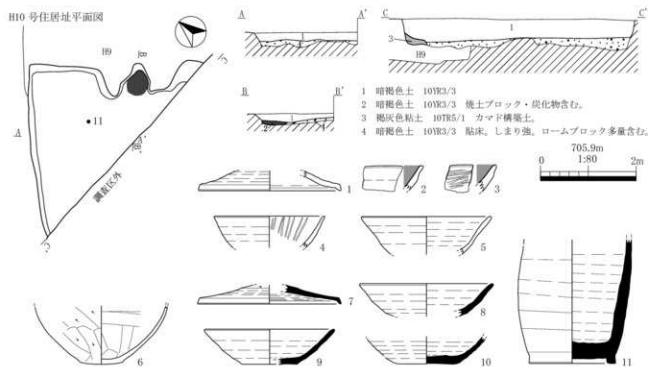


第13図 H9号住居址遺物図2

址である。検出面から床面までの深さは0.55mで、主軸はW-40° -Nを測る。床面は硬質で、ビット6基と壁溝が検出された。P1～P4は柱穴と考えられる。カマドは北西側中央に位置し、礫と粘土で構築され一部天井部が残る。貼床は2面確認でき、10～40cm程度の暑さを有する。壁際に段を有することから住居の拡張が行われたと考えられる。

遺物は土師器・須恵器・弥生土器等が出土している。1～11は土師器の坏である。1～7は半球状を呈し、6・7は内面黒色処理が施される。8は甲斐型坏である。9～10は底部に回転糸切痕が認めら

れるもので、11には二箇所墨書が認められる。「作」と「寸」だろうか。12は土師器の皿、13は土師器の碗、14は土師器の高坏である。15・16・26は土師器の壺、17～25・27～29は土師器の甕である。30～34は須恵器で、30・31は蓋、32は坏、33・34は壺と考えられる。35～38は弥生土器で、35が甕、36・37は鉢である。38は内外面赤彩され、高坏のようにも見えるが角張った形状を呈する。39は板状の片岩で、擦痕が認められる。40～42は編物石だろうか。43は周辺部に敲打痕が認められる。出土遺物に時間的な幅があるが、本址は8世紀代の所産と考えたい。



第14図 H10号住居址遺構図・遺物図

H10号住居址 (第14図)

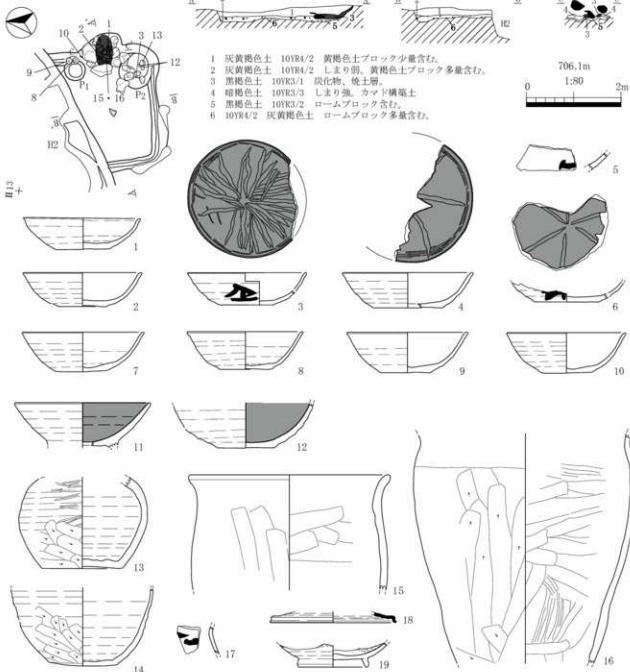
Ⅱ15グリットで検出され、H9号住居址より新しい。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、カマドを北東中央と捉えれば4.2m程度の方形の住居址と想定される。検出面から床面までの深さは0.40m、主軸はN-45°-Eである。住居床面は硬質で、ピットは検出されなかった。カマドは北東側中央だろうか、粘土により構築される。貼床は27cmまでの厚さが確認できる。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1～6は土師器である。1は蓋、2～5は坏、6は甕である。7～11は須恵器で、7は蓋、8～10は坏、11は壺と考えられる。これらの遺物から、本址は9世紀の所産と考えられる。

H11号住居址 (第15図)

Ⅱ12グリットで検出され、H2号住居址より古い。北側がH2号住居址に壊されるため全容は不明だが、南北1.79m以上、東西2.17mの方形の住居址と想定される。検出面から床面までの深さは0.15m、主軸はW-10°-Nである。住居床面は硬質で、ピットが2基検出された。カマドは東側に位置し、礫と焼土が検出され、焼土内から土師器坏等も出土している。貼床は15cm程度の厚さが確認できる。

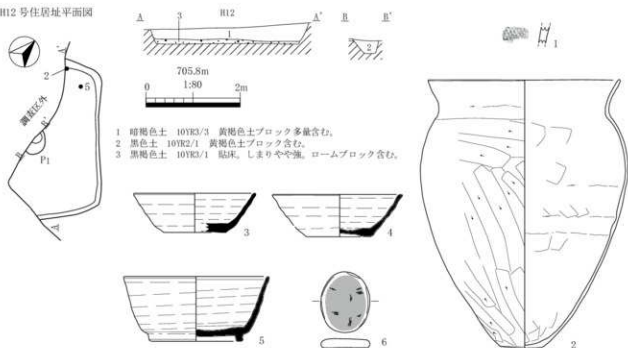
H11号住居址平面図



第15図 H11号住居址遺構図・遺物図

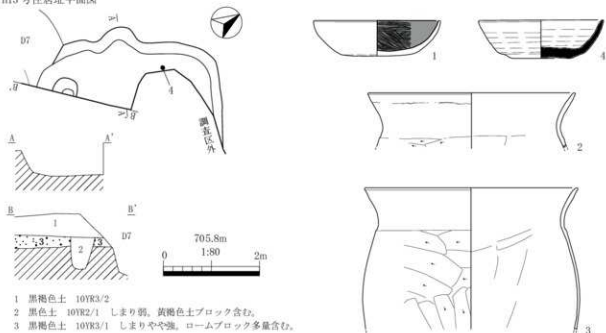
遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器が出土した。1～17は土師器で、1～10は坏である。3・4・6は内面黒色処理と暗文が施され、3・5・6には外面に墨書がみられ、3は「入」冠に「上」か。11は碗、12は鉢で、いずれも内面黒色処理が施される。13は甕、14～16は甕である。17は甕の頸部だろうか、記号のような墨書が認められる。18は須恵器の蓋、19は灰釉陶器の碗である。これらの遺物から本址は9世紀前半の所産と考えられる。

H12号住居址平面図



第16図 H12号住居址遺構図・遺物図

H13号住居址平面図



第17図 H13号住居址遺構図・遺物図

H12 号住居址 (第16図)

IV 4 グリットで検出された。西側が調査区外のため全容は不明だが、南東-北西方向に 3.07m、直交方向に 1.88m 以上、検出面から床面までの深さは 0.38m、主軸は W-40° - N である。住居床面はわずかに硬く、ピットは 1 基検出された。カマドは北西側中央だろうか、焼土等は確認できなかったが、完形に復元できる甕 (2) が出土している。張床は 10cm 程度の厚さが確認できる。

遺物は縄文土器・土師器・須恵器等が出土した。1 は縄文土器で、堀之内式期の深鉢と考えられる。2 は土師器の甕、3・4 は須恵器杯、5 は須恵器有台杯、6 は磨石である。出土遺物が少ないが、本址の帰属時期は 8 世紀代と考えたい。

H13 号住居址 (第17図)

III 2・IV 2 グリットで検出され、H20 号住居址より新しく、D7 号土坑より古い。東側が調査区外のため全容は不明だが、南北 3.54m 以上、東西 1.13m 以上、検出面から床面までの深さは 0.47m、主軸は W-32° - N である。住居床面はわずかに地下水が湧く状態であったが、硬化した床面が確認でき、ピット 1 基が検出された。カマドは西側中央と考えられ、張り出し部にわずかに焼土が確認できた。張床は 25cm 程度の厚さが確認できる。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1～3 は土師器である。1 は杯で内面黒色処理が施される。2・3 は甕である。4 は須恵器杯である。出土遺物が少ないが、本址の帰属時期は 8 世紀代と考えたい。

H14 号住居址 (第18図)

II 8・9 グリットで検出され、P6・H6 号住居址より古い。長軸 2.95m、短軸 2.76m、床面積 8.14 m² を測る方形の住居址である。検出面から床面までの深さは 0.22m、主軸は N-47° - E である。住居床面はわずかに硬く、地山ローム層上面を床面とする。ピット 1 基が検出された。カマドは北東側中央に位置し、礫と焼土が確認できた。

遺物は土師器や灰軸陶器等が出土した。1～13 は土師器である。1～8 は杯で、いずれも内面黒色処理が施され、1・2 は暗文が施される。9 は碗である。10～12 は杯ないし碗で、10 には外面に墨書が認められる。13 は甕である。14～16 は灰軸陶器で、14・15 は皿、16 は碗である。17～20 は鉄製品で、17 は筥引金具で、わずかに木質が残る。18 は板材を筒状に丸めた金具である。19・20 は鉄滓である。これらの遺物から本址は 9 世紀前半の所産と考えられる。

H15 号住居址 (第19図)

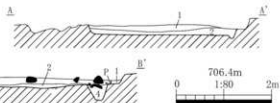
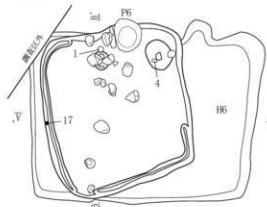
II 6～III 7 グリットで検出され、H16・H18 号住居址より新しく、D4 号土坑より古い。遺構検出面で硬質な床面と壁溝が検出されたため住居址とした。側壁やカマドは削平されてしまったと考えられ全容は不明だが、4m 四方程度の方形の住居址と考えられる。主軸は W-10° - N である。

出土遺物はわずかで、1 は須恵器の杯である。2 は砥石である。H16 号住居址との新旧関係から 8 世紀以降の所産と考えられる。

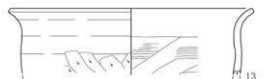
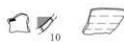
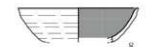
H16 号住居址 (第20図)

II 6～III 7 グリットで検出され、H15・H18 号住居址及び D4 号土坑より古い。長軸 4.14m、短軸 3.60m、床面積 14.76 m² を測る方形の住居址である。検出面から床面までの深さは 0.26m、主軸は W-52° - N である。床面は硬質で、ピットが 5 基検出された。P1～P4 が柱穴と考えられ、北西側の柱穴が壁際

H14 号住居址平面図



- 1 灰黄褐色土 10YR4/2
 2 黒褐色土 10YR3/1 灰黄褐色土ブロック含む。
 3 褐色土 10YR5/1 しまり弱。ローム含む。
 4 褐色土 10YR4/1 黒褐色土ブロック含む。



第18図 H14号住居址遺構図・遺物図

に配置される。カマドは北西中央に位置し、粘土と礫で構築される。

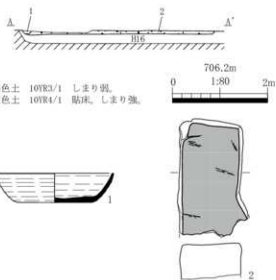
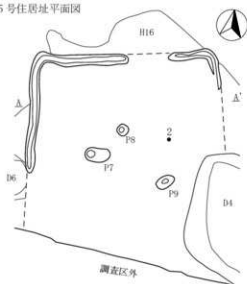
遺物は弥生土器、須恵器などが出土した。1・2は弥生土器で、1は鉢、2は高坏と考えられる。3は須恵器の坏、4は須恵器の有台坏である。5は支脚石でカマド中央から出土した。6は鉄製品で、両端が欠損しており、中央に半円形の突起をもつ金具である。出土遺物から8世紀代の所産と考えられる。

H17号住居址 (第21図)

I 15グリッドで検出され、H9・H10号住居址より古くH19号住居址より新しい。南側をH9号住居址に破壊され、北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、検出範囲で北西-南東方向3.80m以上、直交方向に4.50m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.62m、主軸はW-23° -Nである。床面は硬質で、ビットが1基検出された。貼床は7cm程度の暑さが確認できる。

遺物は弥生土器が出土した。1は鉢、2・3は高坏である。4~6は垂で、頸部に横位羽状の斜走文

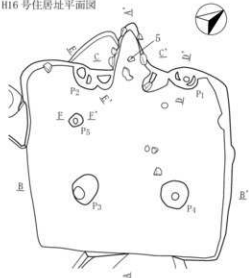
H15号住居址平面図



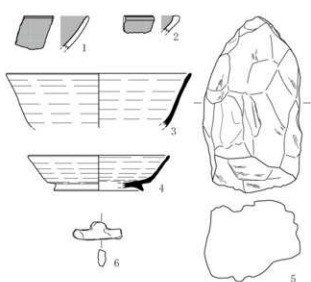
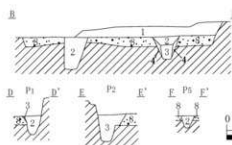
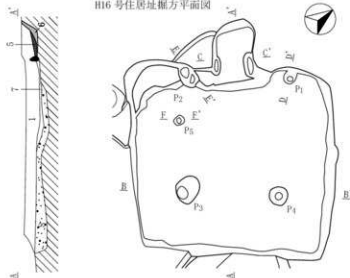
- 1 黒褐色土 10YR3/1 しまり強。
- 2 褐灰色土 10YR4/1 粘珠、しまり強。

第19図 H15号住居址遺構図・遺物図

H16号住居址平面図

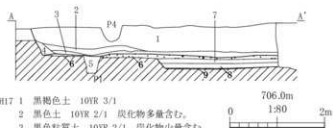
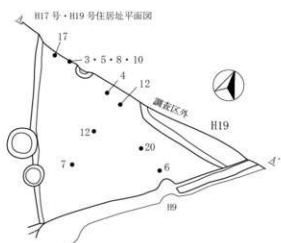


H16号住居址掘方平面図

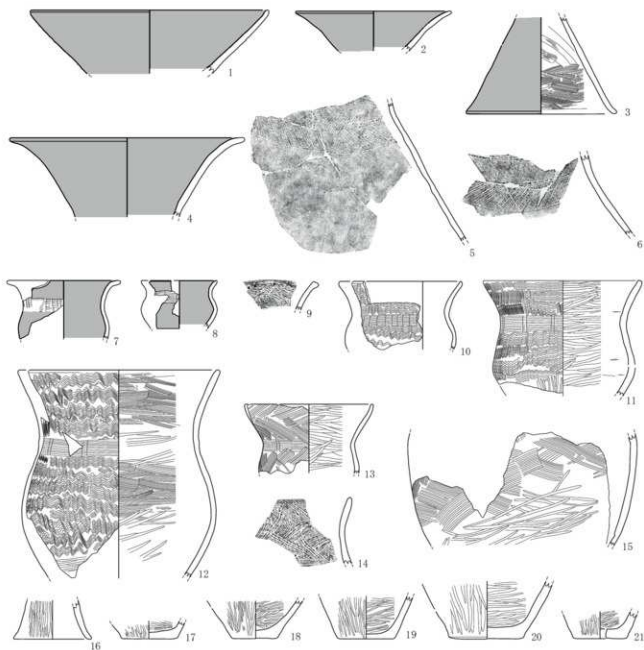


- 1 褐灰色土 10YR4/1
- 2 褐灰色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。
- 3 褐灰色土 10YR5/1 黄褐色土ブロック多量含む。
- 4 にぶい・橙色土 5YR7/3 黒色土ブロック含む。
- 5 黒色土 10YR2/1 炭化物・焼土層。
- 6 褐灰色粘土 10YR4/1 灰白色粘土・炭化物含む。
- 7 黒色土 10YR2/1 しまり強。炭化物・粘土を層状に含む。
- 8 褐灰色土 10YR4/1 しまり強。
にぶい・橙色土ブロック多量、炭化物含む。

第20図 H16号住居址遺構図・遺物図



- H17 1 黒褐色土 10YR 3/1
 2 黒色土 10YR 2/1 炭化物多量含む。
 3 黒色粘質土 10YR 2/1 炭化物少量含む。
 4 黒色土 10YR 2/1 ロームブロック含む。
 5 黒色土 10YR 2/1 しまり弱。ロームブロック含む。
 6 黒褐色土 10YR3/1 しまり強。ロームブロック含む。
 H19 7 黒色土 10YR 2/1 ロームブロック少量含む。
 8 黒色土 10YR 2/1 ロームを帯状に含む。
 9 黒灰色土 10YR4/1 肥球。しまり強。



第21図 H17・19号住居址遺構図・H17号住居址遺物図

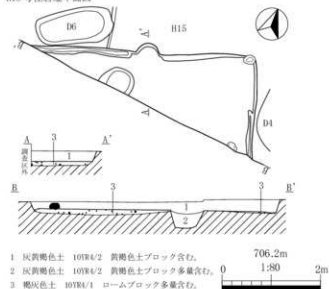
が施される。7～20は甕である。7・8は小型の甕で、頸部に縹状文を施し内外面赤彩されている。9～12は櫛描波状文、13～15は櫛描斜走文が施され、頸部には縹状文が巡る。16は台付甕の脚部、17～20は甕の底部と考えられる。21は単孔の甕である。これらの遺物から本址は弥生時代後期の箱清水式期の所産と考えられる。

H18号住居址（第22図）

Ⅲ6・7グリットで検出され、H15号住居址より古く、H16号住居址より新しい。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西4.18m以上、南北1.91m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.21m、主軸はW-20°-Nである。床面はわずかに硬質で、ビット1基と壁溝が検出された。カマドは北側中央の張り出し部分と考えられるが、焼土などは確認できなかった。貼床は9cm程度の暑さが確認できる。

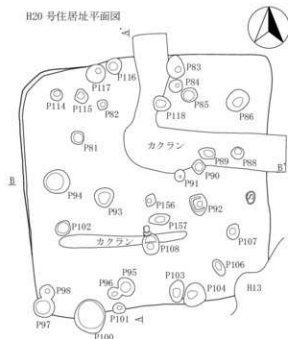
出土した遺物は少なく、図化できた1点は土師器の壺である。本址の帰属時期はH16号住居址との新旧関係から8世紀以降と考えられる。

H18号住居址平面図

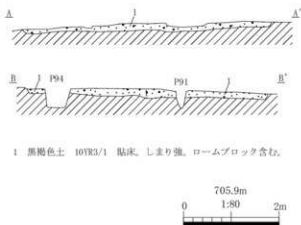


第22図 H18号住居址遺構図・遺物図

H20号住居址平面図



第23図 H20号住居址遺構図



H19号住居址（第21図）

I 15グリットで検出され、H17号住居址より古い。検出範囲がわずかなため全容は不明だが、硬質な床面が確認されたため住居址とした。検出面であるH17号住居址方から床面までの深さは0.18cmを測り、貼床は1cm程度の暑さが確認できる。遺物は図化できなかつたが、弥生時代後期と考えられる土器片が出土しているため、当該期の所産と考えられる。

H20号住居址（第23図）

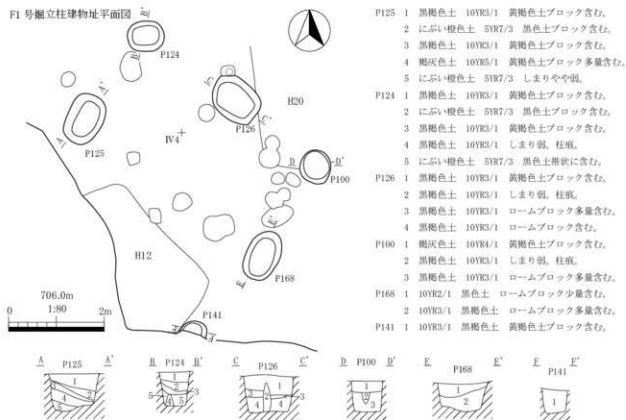
II 2～III 3グリットで検出され、H13号住居址・F1号掘立柱建物址や周囲のピット群より古い。表土直下の遺構検出面で床面と考えられる硬質面が検出された。南北5.12m、東西5.03mの範囲が床面と考えられ、暑さ14cmまでの貼床が確認できた。炉やカマドと考えられる痕跡は確認できなかつた。

明確に本址に伴う遺物がないため帰属時期は不明だが、H13号住居址との関係から8世紀以前の所産と考えられる。

第2節 掘立柱建物址

F1号掘立柱建物址（第24図）

III 3～IV 4グリットで検出され、南西側が調査区外に続くため全容は不明だが、桁行2間以上、梁行2間の側柱建物と考えられる。柱穴はP100、P124、P125、P126、P141、P168により構成され、



第24図 F1号掘立柱建物址遺構図

P100、P124、P126では柱痕が確認できる。柱穴の大きさは長軸0.67～1.06m、短軸0.63～0.82m、深さ0.48～0.77m、柱間は2.15～2.30mを測る。建物主軸はN-36°-Eである。

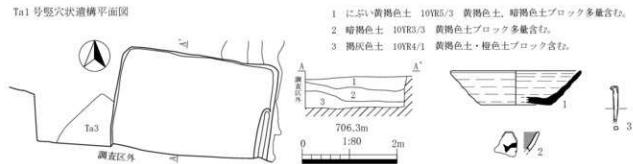
遺物は弥生土器片と土師器片が出土しているが、いずれも混入品と考えられる。本址の帰属時期については、出土した土師器や主軸方向から奈良・平安時代の所産と考えられる。

第3節 竪穴状遺構

Ta1号竪穴状遺構（第25図）

Ⅲ7・8グリットで検出された。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北2.08m以上、東西3.18m、検出面からの深さ0.63m、主軸はN-9°-Eを測る。硬い床面は確認されなかったが、東側で壁溝が検出された。人為的に埋戻されたような埋土である。

遺物は土師器・須恵器等の坏、2は土師器の坏で墨書が認められる。3は鉄製の釘と考えられる。出土遺物は奈良・平安時代の遺物であるが、埋土の特徴から本址は中世の所産と考えられる。



第25図 Ta1号竪穴状遺構遺構図・遺物図

Ta2号竪穴状遺構（第26図）

Ⅱ7・8グリットで検出された。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北1.08m以上、東西2.59m、検出面からの深さ0.42m、主軸はN-4°-Eを測る。硬い床面は確認されなかったが、全体に溝が巡る。

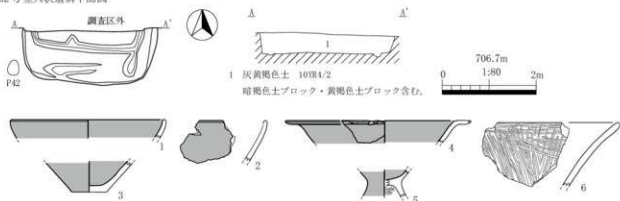
遺物は弥生土器が出土した。1～3は鉢、4・5は高坏、6は壺である。出土遺物は弥生時代後期の遺物であるが、埋土の特徴から本址は中世の所産と考えられる。

Ta3号竪穴状遺構（第27図）

Ⅲ8グリットで検出され、Ta1号竪穴状遺構より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南北0.99m以上、東西0.72m以上、検出面からの深さ0.38m、主軸はN-45°-Eを測る。硬い床面は確認されなかったが、ビット2基が検出された。

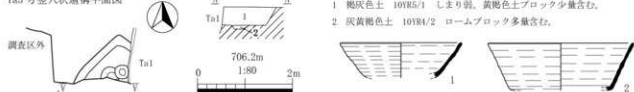
遺物は須恵器の坏が出土している。Ta1・Ta2同様、埋土の特徴から本址は中世の所産と考えられる。

Ta2号竪穴状遺構平面図



第 26 図 Ta2号竪穴状遺構遺構図・遺物図

Ta3号竪穴状遺構平面図



第 27 図 Ta3号竪穴状遺構遺構図・遺物図

第 4 節 土坑

D1号土坑 (第 28 図)

Ⅱ 12 グリッドで検出され、H2号住居址・D2号土坑より新しい。長軸 1.11m、短軸 1.09m、検出面からの深さは 0.38m を測る円形の土坑である。H2号住居址埋土を掘り込んでおり、黒曜石の破片が出土した。平安時代以降の所産と考えられる。

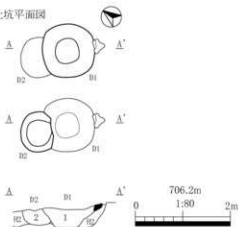
D2号土坑 (第 28 図)

Ⅱ 12 グリッドで検出され、H2号住居址より新しく D1号土坑より古い。長軸 0.85m、短軸 0.65m 以上、検出面からの深さは 0.32m を測る楕円形の土坑である。H2号住居址埋土を掘り込んでおり、遺物は出土していない。平安時代以降の所産と考えられる。

D4号土坑 (第 28 図)

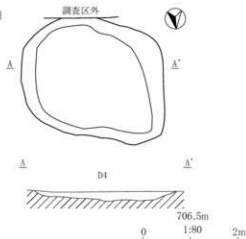
Ⅲ 5・6 グリッドで検出され、H15・H16号住居址より新しい。長軸 3.02m、短軸 2.43m、検出面からの深さは 0.20m を測る不整形の土坑である。遺物は図化できなかったが須恵器と土師器が出土している。奈良・平安時代以降の所産と考えられる。

D1・D2号土坑平面図



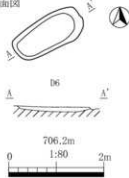
D1埋土 1 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
D2埋土 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。

D4号土坑平面図



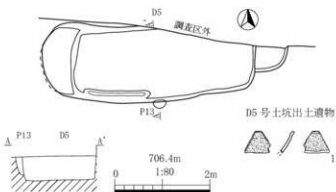
1 灰黄褐色土 10YR4/2 しまりやや弱。ロームブロック少量含む。

D6号土坑平面図



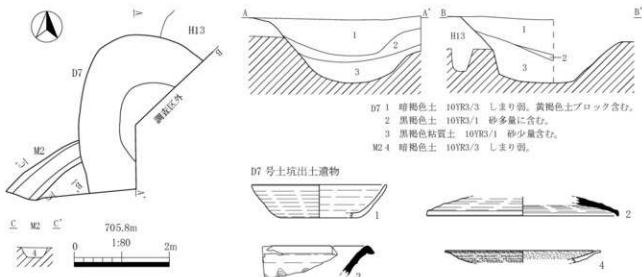
D6 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。

D5号土坑平面図



D5 灰黄褐色土 10YR4/2 褐灰色土ブロック・黄褐色土ブロック多量含む。
P13 褐色土 10YR4/1

D7号土坑・M2号溝址平面図



D7 1 暗褐色土 10YR3/3 しまり弱。黄褐色土ブロック含む。
2 黒褐色土 10YR3/1 砂多量に含む。
3 黒褐色粘質土 10YR3/1 砂少量含む。
M2 4 暗褐色土 10YR3/3 しまり弱。

第28図 土坑・溝址遺構図・遺物図

D5号土坑（第28図）

Ⅱ5・6グリッドで検出された。一部が北側調査区外に延びるが、長軸5.13m、短軸1.43m、検出面からの深さは0.50mを測る隅丸長方形の土坑と考えられる。断面形状や埋土はTa1～3号堅穴状遺構に類似するが、長軸方向の両側が段を有し、底面の南側には溝が検出された。遺物は灰軸陶器(1)が出土している。本址は形状や埋土の特徴から中世の所産と考えられる。

D6号土坑（第28図）

Ⅲ7グリッドで検出され、H15号住居址より古い。長軸1.53m、短軸0.67m、検出面からの深さは0.09mを測る長方形の土坑である。遺物は土師器片が出土している。帰属時期は不明である。

D7号土坑（第28図）

Ⅳ2グリッドで検出され、H13号住居址・M2号溝址より新しい。東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、直径3m程度の円形の土坑と考えられる。検出面から底面までの深さは1.33mで、湧水がみられる。木枠や水溜め等は確認されなかったが、形状から井戸址と考えられる。

遺物は土師器・須恵器・灰軸陶器が出土した。1は土師器の坏、2は須恵器の蓋、3は須恵器の甕で波状文が施される。4は灰軸陶器の皿である。これらの遺物から本址は平安時代以降の所産と考えられる。

第5節 溝址

M2号溝址（第28図）

Ⅳ3・V3グリッドで検出され、D7号土坑より古い。南側調査区外に延びるため全容は不明だが、長さ1.58m以上、短軸0.57m、検出面からの深さは0.20m、主軸はN-52°-Eを測る。遺物が出土していないため本址の帰属時期は不明である。

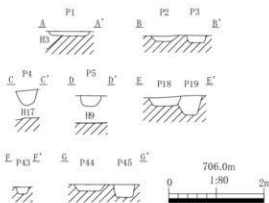
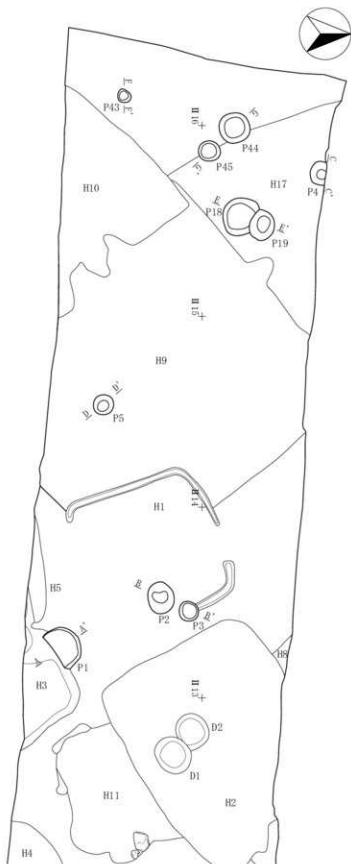
第6節 ビット（第29図～第33図、第1表～第4表）

166基のビットが検出された。調査区全域で検出されるが、東側のⅡ1～Ⅲ5グリッド、中央のⅡ9～Ⅱ11グリッド付近に集中している。建物の柱穴となるビットも含まれると考えられるが、明確に並ぶものは確認できなかった。各ビットの詳細は第1表～第4表に示す。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器等の破片が出土している。P2からは土師器の坏2点が出土しているが、H1号住居址からの混入した可能性が考えられる。

第7節 遺構外出土遺物（第34図）

遺構外からは弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄製品が出土した。1・2は弥生土器である。1は壺で内外面赤彩される。2は甕で、口縁部を折返す形態である。3～8は土師器である。3は内面黒色処理が施される坏、4～6は内面黒色処理が施される坏ないし碗で、5には墨書が認められる。7は甕、8は甕と考えられる。9～16は須恵器である。9～11は坏、12は有台坏、13は蓋、14は高坏、15は甕、16は壺である。17は石鏃で先端が欠損する。18は片岩で、加工用に持ち込まれた可能性が考えられる。19・20は角釘、21は用途不明の鉄製品である。

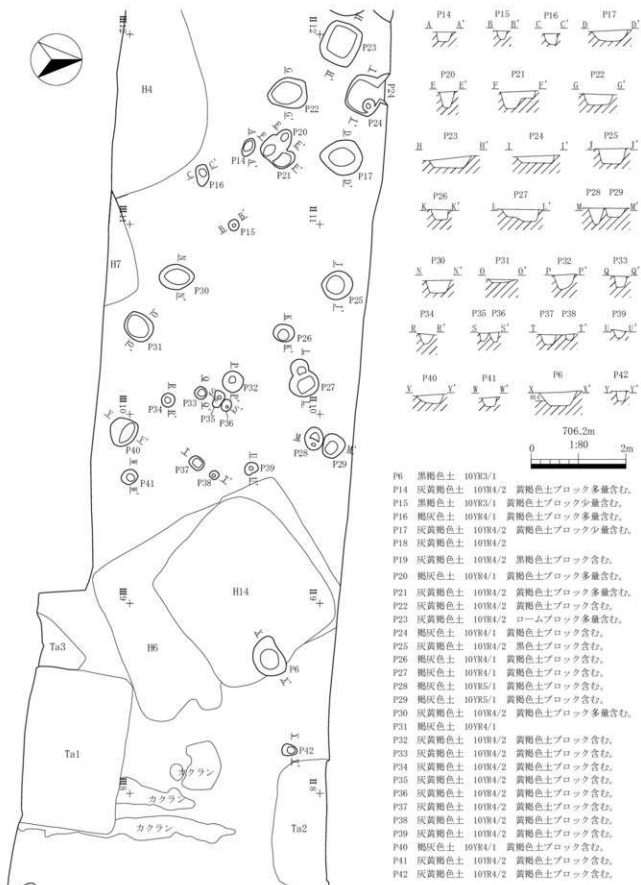


- P1 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック少量含む。
 P2 暗褐色土 10YR3/3 しまり弱。
 P3 暗褐色土 10YR3/3
 P4 暗褐色土 10YR3/3 焼土多量含む。
 P5 暗褐色土 10YR3/3
 P18 灰黄褐色土 10YR4/2
 P19 灰黄褐色土 10YR4/2 黒色土ブロック含む。
 P43 細灰色土 10YR4/1 ロームブロック含む。
 P44 細灰色土 10YR4/1 ロームブロック含む。
 P45 細灰色土 10YR4/1 ロームブロック少量含む。

P2 出土遺物

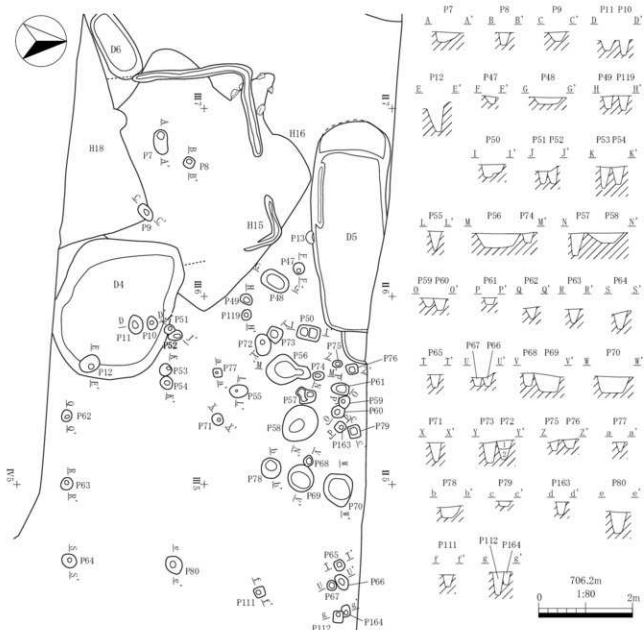


第29図 ビット遺構図1・遺物図



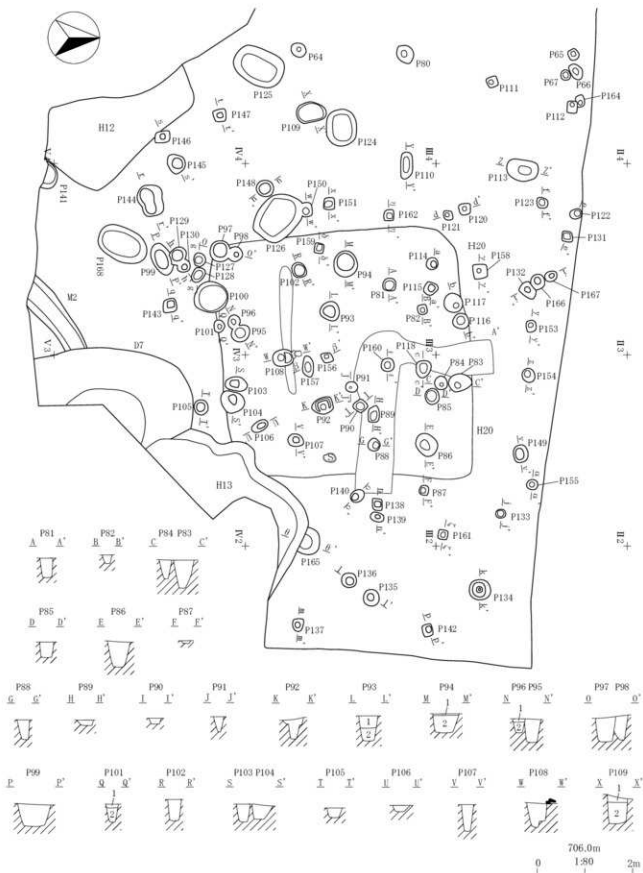
- P6 黒褐色土 10YR3/1
- P14 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック多量含む。
- P15 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック少量含む。
- P16 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック多量含む。
- P17 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック少量含む。
- P18 灰黄褐色土 10YR4/2
- P19 灰黄褐色土 10YR4/2 黒褐色土ブロック含む。
- P20 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック多量含む。
- P21 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック多量含む。
- P22 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P23 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック多量含む。
- P24 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。
- P25 灰黄褐色土 10YR4/2 黒色土ブロック含む。
- P26 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。
- P27 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。
- P28 褐色土 10YR5/1 黄褐色土ブロック含む。
- P29 褐色土 10YR5/1 黄褐色土ブロック含む。
- P30 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック多量含む。
- P31 褐色土 10YR4/1
- P32 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P33 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P34 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P35 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P36 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P37 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P38 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P39 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P40 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。
- P41 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。
- P42 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック含む。

第30図 ビット遺構図2

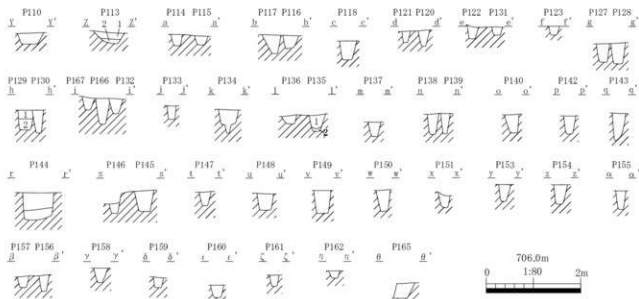


- | | | |
|------------------------------------|---|----------------------------------|
| P7 灰黄褐色土 10YR4/2 しまり弱。 | P62 黒褐色土 10YR3/1 | P79 褐色土 10YR4/1
黄褐色土ブロック含む。 |
| P8 黒褐色土 10YR3/1 しまり弱。 | P63 黒褐色土 10YR3/1 | P80 褐色土 10YR4/1
黄褐色土ブロック含む。 |
| P9 灰黄褐色土 10YR4/2 しまり弱。 | P64 褐色土 10YR4/1 | P111 褐色土 10YR4/1
黄褐色土ブロック含む。 |
| P47 褐色土 10YR4/1 ロームブロック含む。 | P65 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック多量含む。 | P112 黒褐色土 10YR3/1
黄褐色土ブロック含む。 |
| P48 褐色土 10YR4/1
黄褐色土・黒色土ブロック含む。 | P66 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック多量含む。 | P119 褐色土 10YR4/1
黄褐色土ブロック含む。 |
| P49 褐色土 10YR4/1 ロームブロック含む。 | P67 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック多量含む。 | P163 褐色土 10YR4/1 |
| P50 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック含む。 | P68 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。 | P164 褐色土 10YR4/1 |
| P51 褐色土 10YR4/1 ロームブロック含む。 | P69 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック含む。 | |
| P52 褐色土 10YR4/1 ロームブロック含む。 | P70 黒褐色土 10YR3/1 焼土・炭化物含む。 | |
| P53 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック含む。 | P71 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック少量含む。 | |
| P54 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック含む。 | P72 1 灰黄褐色土 10YR4/2
2 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック多量含む。 | |
| P55 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック含む。 | P73 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土ブロック多量含む。 | |
| P56 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック含む。 | P74 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。 | |
| P57 褐色土 10YR4/1 ロームブロック含む。 | P75 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。 | |
| P58 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロック含む。 | P76 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。 | |
| P59 褐色土 10YR4/1 | P77 褐色土 10YR4/1 黄褐色土ブロック含む。 | |
| P60 褐色土 10YR4/1 | P78 褐色土 10YR4/1 ロームブロック多量含む。 | |
| P61 黒褐色土 10YR3/1 | | |

第31図 ビット遺構図3

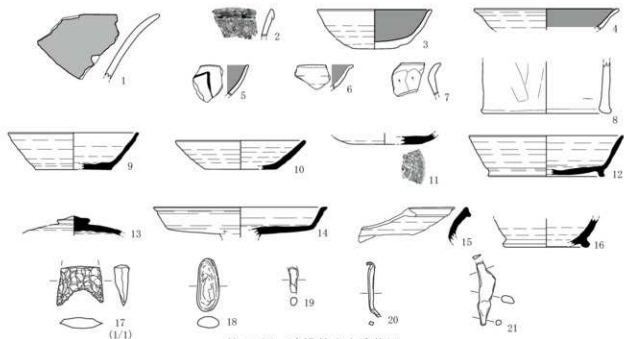


第32図 ビット遺構図4



- | | | | | | | | |
|------|----------|----------|---------------|----------|---------|--------------|-------------|
| P81 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P122 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P82 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P123 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P83 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P127 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P84 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色土ブロック含む。 | P128 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P85 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P129 | 1 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P86 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | 2 褐灰色土 | 10YR4/1 | ロームブロック多量含む。 | |
| P87 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | | P130 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P88 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P131 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P89 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P132 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | |
| P90 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | | P133 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P91 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P134 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P92 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P135 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | |
| P93 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | 2 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | |
| | 2 にぶい橙色土 | 5YR7/3 | 黒色土ブロック含む。 | P136 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P94 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | | P137 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| | 2 にぶい橙色土 | 5YR7/3 | | P138 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | |
| P95 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P139 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | |
| P96 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | | P140 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | |
| | 2 にぶい橙色土 | 7.5YR7/3 | | P142 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | |
| P97 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | | P143 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P98 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P144 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P99 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック少量含む。 | 2 にぶい橙色土 | 5YR7/3 | 黒色土ブロック含む。 | |
| P101 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | | P145 | 褐灰色土 | 10YR5/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| | 2 にぶい橙色土 | 5YR7/3 | | P146 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P102 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P147 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P103 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P148 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P104 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P149 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P105 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 黄褐色土ブロック含む。 | P150 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 |
| P106 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック多量含む。 | P151 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P107 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P153 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | |
| P108 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 黄褐色土ブロック含む。 | P154 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | ロームブロック含む。 |
| P109 | 1 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | | P155 | 1 黒褐色土 | 10YR3/1 | |
| | 2 にぶい橙色土 | 5YR7/3 | 褐灰色土ブロック含む。 | 2 褐灰色土 | 10YR4/1 | ロームブロック含む。 | |
| P110 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色土ブロック含む。 | P156 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P113 | 1 褐灰色土 | 10YR4/1 | | P157 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | |
| | 2 褐灰色土 | 10YR4/1 | ロームブロック含む。 | P158 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P114 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | | P159 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P115 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P160 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P116 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | | P161 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P117 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック含む。 | P162 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P118 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ロームブロック含む。 | P165 | 褐灰色土 | 10YR4/1 | |
| P120 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | | | | | |

第 33 図 ビット遺構図 4



第34図 遺構外出土遺物図

遺構名	グリット	法量 (cm)			遺物	備考
		長軸	短軸	深さ		
P1	II 13	87.1	(56.9)	9.8	土師器	H3より新
P2	II 13	65.9	54.8	12.6		H1より新
P3	II 13	41.4	40.2	15.2	土師器	H1より新
P4	I 15	49.7	(34.0)	34.1	弥生土器・土師器・須恵器	H17より新
P5	II 14	44.1	43.0	21.8	須恵器	H9より新
P6	II 8	84.1	62.5	28.7	弥生土器・土師器・須恵器・ 灰軸陶器	H6より新
P7	III 6	53.0	28.3	22.3	石器・鉄器	H15・H16より新
P8	III 6	23.1	21.9	26.7		H15・H16より新
P9	III 6	38.4	24.2	18.4	土師器・鉄器	H15・H16・H18より新
P10	III 5	27.8	19.9	31.9		D4より古
P11	III 5	39.2	29.1	21.7		D4より古
P12	III 5	43.6	34.0	52.9		D4より古
P13	II 6	27.5	(16.5)	37.2		D5より古
P14	II 11	39.6	23.6	20.5	土師器	
P15	II 10	23.9	20.5	18.1		
P16	II 11	43.7	25.7	23.3	須恵器	
P17	I 11	89.7	74.1	23.3	土師器	
P18	I 15	83.5	74.0	18.2	弥生土器・土師器	P19より新
P19	I 15	60.0	52.4	40.9	弥生土器・土師器	P18より古
P20	II 11	41.2	33.1	33.9	土師器	P21より新
P21	II 11	72.8	44.8	34.8	土師器・須恵器	P20より古
P22	II 11	82.2	69.0	24.2		
P23	I 11	89.0	78.9	23.3	弥生土器・須恵器	
P24	I 11	(86.1)	86.9	15.2	土師器・須恵器	
P25	I 10	65.3	58.2	32.7	土師器	
P26	II 10	43.6	36.7	21.7		
P27	II 10	79.3	62.6	25.5	土師器・須恵器	
P28	II 9	47.0	38.7	34.6	土師器・須恵器	
P29	I 9	50.3	42.2	19.2	弥生土器・土師器	
P30	II 10	73.0	52.7	26.1		

第1表 ビット計測表1

遺構名	グリット	法量 (cm)			遺物	備考
		長軸	短軸	深さ		
P31	II 10	63.2	54.1	7.1	土師器	
P32	II 10	44.5	44.0	30.9		
P33	II 10	26.0	25.5	23.2		
P34	II 10	29.5	27.7	21.2		
P35	II 10	34.6	16.7	17.9		
P36	II 10	23.6	19.2	20.6		
P37	II 9	31.2	24.8	21.7		
P38	II 9	19.2	17.1	12.8		
P39	II 9	28.9	21.0	16.8	須恵器	
P40	III 9	60.3	56.1	19.8	土師器	
P41	II 9	34.1	30.1	19.8		
P42	II 8	32.2	24.6	21.0		
P43	II 16	28.9	25.6	14.6		
P44	I 15	63.8	63.0	13.3		H17 より新
P45	I 15	47.8	43.0	26.8	土師器	H17 より新
P46	—	—	—	—		H16 号住居址 P ₃ に変更
P47	II 6	25.0	23.0	18.4		
P48	II 6	62.0	38.6	13.8		
P49	II 5	27.5	20.5	26.3	土師器	
P50	II 5	47.8	30.3	26.7		
P51	III 5	20.6	19.3	26.6		P52 より新
P52	III 5	29.2	18.7	37.0		P51 より古
P53	III 5	24.5	23.8	45.6		
P54	III 5	26.6	23.3	37.3		
P55	II 5	37.6	25.2	40.6	土師器	
P56	II 5	94.9	64.0	29.7	土師器	
P57	II 5	41.0	27.9	47.4		
P58	II 5	84.0	69.2	21.2	須恵器	
P59	II 5	25.1	21.6	18.9		P60 より古
P60	II 5	29.9	25.3	24.8		P59 より新
P61	II 5	36.6	24.3	14.3		
P62	III 5	22.7	19.9	22.6	弥生土器	
P63	III 5	25.6	21.8	30.2	須恵器	
P64	III 4	30.9	26.5	38.5		
P65	II 4	21.1	19.0	26.9		
P66	II 4	34.6	23.8	27.7		
P67	II 4	19.6	18.6	17.5		
P68	II 5	22.9	18.7	27.5		P69 より古
P69	II 5	55.2	53.3	39.8	土師器・石器	P68 より新
P70	II 4	72.1	63.1	34.6	土師器・須恵器・石器	
P71	II 5	23.4	20.9	40.4		
P72	II 5	44.1	31.0	39.9		
P73	II 5	29.8	27.4	44.3		
P74	II 5	22.8	15.2	21.3		
P75	II 5	19.0	12.7	22.6		
P76	II 5	21.9	19.5	19.4		
P77	II 5	16.9	16.9	20.1		
P78	II 5	42.2	40.1	23.2		
P79	II 5	25.0	22.2	10.2		
P80	III 4	40.5	31.7	44.3		
P81	III 3	26.7	24.8	40.6		H20 より新
P82	III 3	18.5	18.2	17.5		H20 より新
P83	II 2	47.6	34.2	57.3		H20 より新
P84	II 2	26.4	24.6	38.2		H20 より新
P85	III 2	31.3	28.6	32.4		H20 より新

第2表 ビット計測表2

遺構名	グリット	法量 (cm)			遺物	備考
		長軸	短軸	深さ		
P86	Ⅲ 2	47.2	38.2	53.1	土師器	H20 より新
P87	Ⅲ 2	18.5	18.1	5.7		
P88	Ⅲ 2	25.1	24.2	40.3		
P89	Ⅲ 2	30.8	22.4	10.5		
P90	Ⅲ 2	23.9	23.2	11.6		H20 より新
P91	Ⅲ 2	23.3	19.8	32.1		H20 より新
P92	Ⅲ 2	42.9	32.0	44.1		H20 より新
P93	Ⅲ 3	39.7	38.6	52.3		H20 より新
P94	Ⅲ 3	53.1	47.6	39.4		H20 より新
P95	Ⅳ 3	38.2	32.5	48.9		H20 より新、P96 より古
P96	Ⅳ 3	25.4	25.3	28.6		H20・P95 より新
P97	Ⅳ 3	42.2	40.7	51.1	土師器	H20・P98 より新
P98	Ⅳ 3	29.5	27.5	51.0		H20 より新、P97 より古
P99	Ⅳ 3	67.9	39.0	45.8	須恵器	P129 より新
P100	Ⅳ 3	71.1	65.7	64.5	弥生土器・土師器	F1号掘立柱建物、H20 より新
P101	Ⅳ 3	24.9	21.4	38.0		H20 より新
P102	Ⅲ 3	30.6	27.0	44.4	石器	H20 より新
P103	Ⅳ 2	45.7	27.7	37.5		H20 より新
P104	Ⅳ 2	50.9	41.7	31.5		H20 より新
P105	Ⅳ 2	29.8	28.9	19.7		
P106	Ⅲ 2	34.7	19.6	12.7	灰釉陶器	H20 より新
P107	Ⅲ 2	31.5	23.8	55.4		H20 より新
P108	Ⅲ 2	42.2	32.7	50.9	弥生土器・土師器	H20 より新
P109	Ⅲ 4	61.5	41.0	59.0	弥生土器・土師器・須恵器	
P110	Ⅲ 3	54.2	23.1	23.2		H20 より新
P111	Ⅱ 4	21.6	20.2	24.6		
P112	Ⅱ 4	25.1	18.5	48.3		P164 より古
P113	Ⅱ 3	64.3	43.8	21.7		
P114	Ⅲ 3	24.2	21.6	23.2		H20 より新
P115	Ⅲ 3	28.7	25.0	18.9		H20 より新
P116	Ⅱ 3	31.8	31.5	27.2		H20 より新
P117	Ⅱ 3	39.6	37.9	39.5		H20 より新
P118	Ⅲ 2	36.1	31.3	39.7		H20 より新
P119	Ⅱ 5	22.5	19.3	30.5		
P120	Ⅱ 3	22.3	21.8	33.3	弥生土器	
P121	Ⅱ 3	17.2	16.5	23.6		
P122	Ⅱ 3	23.7	18.1	25.2	須恵器	
P123	Ⅱ 3	22.6	20.4	18.9		
P124	Ⅲ 4	74.9	61.5	69.6	弥生土器・土師器	F1号掘立柱建物
P125	Ⅲ 4	107.9	72.7	78.3	弥生土器	F1号掘立柱建物
P126	Ⅲ 3	106.0	82.6	78.1	弥生土器	F1号掘立柱建物、P150 より古
P127	Ⅳ 3	26.5	22.2	38.7	須恵器	
P128	Ⅳ 3	31.7	22.6	43.9		
P129	Ⅳ 3	(35.7)	(28.1)	40.9		P99・P130 より古
P130	Ⅳ 3	26.8	24.6	47.6		P129 より新
P131	Ⅱ 3	20.1	19.8	17.7		
P132	Ⅱ 3	36.4	24.3	31.3		P166 より新
P133	Ⅱ 2	19.3	16.8	28.6		
P134	Ⅱ 1	43.6	41.0	49.9		
P135	Ⅲ 1	33.9	32.4	34.8		
P136	Ⅲ 1	30.5	29.0	18.7		
P137	Ⅲ 1	25.0	20.9	30.2		
P138	Ⅲ 2	23.1	19.3	42.9	土師器	
P139	Ⅲ 2	27.4	18.4	42.9		
P140	Ⅲ 2	28.6	23.5	38.4		

第3表 ビット計測表3

遺構名	グリット	法量 (cm)			遺物	備考
		長軸	短軸	深さ		
P141	V 3	52.1	(27.0)	50.8	弥生土器・土師器	F1号掘立柱建物址
P142	Ⅲ1	24.0	19.8	38.3		
P143	Ⅳ3	26.9	25.9	57.3	須恵器	
P144	Ⅳ3	66.4	51.7	57.7	弥生土器	
P145	Ⅳ4	40.3	33.4	43.2	弥生土器	
P146	Ⅳ4	31.5	23.0	20.1		
P147	Ⅳ4	25.3	23.9	28.9		
P148	Ⅲ3	34.1	33.9	34.1	弥生土器・土師器	
P149	Ⅱ2	34.7	29.7	48.0		
P150	Ⅲ3	30.0	21.9	44.8		P126より新
P151	Ⅲ3	23.1	20.7	32.3		
P152	—	—	—	—		欠番
P153	Ⅱ3	22.4	18.3	35.6		
P154	Ⅱ2	29.8	25.3	40.6		
P155	Ⅱ2	21.6	20.1	38.6		
P156	Ⅲ2	19.8	19.2	34.2		H29より新
P157	Ⅲ2	43.0	21.7	23.3		H29より新
P158	Ⅱ3	29.5	29.1	29.7	土師器	
P159	Ⅲ3	21.0	19.4	22.9		
P160	Ⅲ2	27.0	25.8	25.6	土師器	
P161	Ⅱ2	19.2	18.9	22.7		
P162	Ⅲ3	21.3	19.8	15.4		
P163	Ⅱ5	20.8	18.3	26.2		
P164	Ⅱ4	22.2	16.1	27.1		P112より古
P165	Ⅲ2	53.7	(37.0)	32.1		H13より古
P166	Ⅱ3	29.0	28.8	54.6		P132より古
P167	Ⅱ3	25.0	20.1	28.2		
P168	Ⅳ3	107.1	69.5	57.5	弥生土器・土師器・石器	F1号掘立柱建物。D3から変更

第4表 ビット計測表4

H1	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	皿	(12.2)	(5.6)	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	Ⅳ区
2	土師器	坏	13.2	6.3	4.3	ロクロナデか、表面磨耗	ロクロナデ・底部回転糸切	No3
3	土師器	坏	13.4	5.4	4.5	ロクロナデ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切	No8
4	土師器	坏	13.3	5.6	4.0	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・墨書「魚」か	No8・Ⅳ区堀方
5	土師器	坏	12.8	6.3	3.7	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・ヘラケズリ	No4
6	土師器	坏	(13.2)	5.6	4.4	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・ヘラケズリ	No8・Ⅳ区
7	土師器	坏	(14.2)	—	(4.2)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	カマド、Ⅳ区
8	土師器	坏	(15.2)	—	(4.8)	ミガキ・黒色処理	ヘラケズリ	H1-P1
9	土師器	坏	(13.8)	—	(3.9)	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・墨書	検出
10	須恵器	坏	(13.6)	(5.4)	3.0	ロクロナデ、磨耗あり	ロクロナデ・底部回転糸切	Ⅳ区、内外面煤付着
11	須恵器	坏	13.0	(7.3)	3.7	ロクロナデ・火摩痕	ロクロナデ・底部回転糸切・火摩痕	No1・Ⅱ区
12	土師器	碗	(15.5)	8.2	5.4	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・付高台	No6・Ⅳ区
13	土師器	碗	—	6.4	(2.0)	ミガキ・黒色処理か、内面磨耗	ロクロナデ・底部回転糸切・付高台	Ⅳ区
14	土師器	甕	(16.6)	—	(13.1)	ナデ	ナデ・ミガキ	Ⅳ区
15	土師器	甕	(21.0)	—	(12.3)	ナデ	ナデ・ミガキ	Ⅳ区
16	土師器	甕	(23.0)	—	(10.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
17	土師器	甕	—	—	(21.5)	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	

第5表 遺物観察表1

H2	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	12.3	5.5	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	IV区
2	土師器	坏	13.4	6.6	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	I・II・IV区
3	土師器	坏	12.4	6.2	3.8	ロクロナデ・口縁保付着	ロクロナデ・底部回転糸切	II区
4	土師器	坏	(14.0)	(6.0)	3.8	ミガキ・暗文	ロクロナデ・底部ヘラケズリ・刷書「万」	IV区
5	土師器	坏	13.3	5.2	4.0	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切	III区・IV区
6	土師器	坏	12.2	5.7	3.5	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部ヘラケズリ	IV区
7	土師器	坏	(13.5)	5.2	4.2	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部ヘラケズリ・墨書	No3, I区
8	土師器	坏	—	(5.0)	(1.4)	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・墨書	III区
9	土師器	坏	—	5.9	(2.4)	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切	IV区
10	土師器	坏	(13.4)	(6.0)	4.2	ロクロナデ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切	III区
11	土師器	坏	13.0	5.7	4.4	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切後ヘラケズリ	No1
12	土師器	坏	(14.4)	(5.2)	4.0	ロクロナデ・黒色処理か	ロクロナデ・底部回転糸切	I区
13	土師器	坏	(14.2)	(5.0)	5.4	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	III区
14	土師器	坏	(15.6)	—	(3.6)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	IV区
15	土師器	坏	—	—	(2.5)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・墨書	III区
16	土師器	碗	(16.5)	7.8	5.9	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切後ヘラケズリ・付高台・墨書	IV区
17	土師器	碗	(18.0)	—	(5.5)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	IV区
18	土師器	碗	—	(9.4)	(1.9)	暗文・黒色処理	ロクロナデ・付高台	III区
19	土師器	碗	—	6.3	(1.9)	ロクロナデ・ミガキ	ロクロナデ・付高台	III区
20	土師器	碗	—	(6.0)	(2.9)	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・付高台	IV区
21	土師器	碗	(14.4)	7.7	4.9	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・付高台	No2
22	土師器	甕	(14.0)	—	(4.5)	ナデ	ナデ	II・IV区
23	土師器	甕	(14.8)	—	(9.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	IV区
24	土師器	甕	(19.0)	—	(9.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
25	土師器	甕	(21.6)	—	(13.4)	ナデ・ハケ	ナデ・ヘラケズリ	IV区
26	土師器	甕	(22.0)	—	(12.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	III区
27	土師器	甕	(23.0)	—	(8.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
28	土師器	甕	—	(6.0)	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	IV区
29	須恵器	蓋	(12.4)	—	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	III区
30	須恵器	坏	(13.2)	(9.0)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラ切	I・II区
31	須恵器	坏	(14.0)	—	(4.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	IV区
32	須恵器	甕	—	—	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
33	須恵器	甕	—	—	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	IV区
34	須恵器	甕	(20.0)	—	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	II区
35	須恵器	甕	—	8.6	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラケズリ	II区
36	灰軸陶器	碗	—	—	(1.8)	ロクロナデ・灰軸	ロクロナデ・灰軸	IV区
37	灰軸陶器	皿	—	(7.0)	(2.2)	ロクロナデ・灰軸	ロクロナデ・灰軸 底部ヘラケズリ・付高台	I区
38	灰軸陶器	碗	—	(8.2)	(3.7)	ロクロナデ・灰軸	ロクロナデ・灰軸 底部ヘラケズリ・付高台	IV区
39	石器	磨石	7.9	6.3	3.4	全体に磨痕		III区
40	石器	敲石	(12.4)	(8.1)	(4.6)	両面及び縁面に敲打痕		I区
41	鉄製品	刀子	(7.4)	1.0	0.4	刃部欠損		I区
42	鉄製品	刀子	(3.8)	(1.3)	(0.3)	刃部破片		I区
43	鉄製品	不明	2.5	0.9	0.4			II区
44	鉄製品	角釘か	(4.1)	(0.5)	(0.5)	両側欠損		I区
45	鉄製品	鉄蓋か	(4.1)	(0.5)	(0.3)	両側欠損		I区
46	鉄製品	角軸	(8.7)	(0.6)	(0.6)	両側欠損		II区
47	鉄製品	鉄滓	5.1	4.2	1.9			IV区

第6表 遺物観察表 2

H3	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(15.0)	—	(3.9)	ハラナデ	ハラケズリ	
2	土師器	甕	21.8	—	(13.6)	ナデ	ハラケズリ	カマド
3	須恵器	甕	(15.0)	—	(3.7)	ロクロナデ・火障直	ロクロナデ・火障直	
4	須恵器	有台坏	(15.0)	(11.0)	4.0	ロクロナデ・火障直	ロクロナデ・付高台	カマド
5	須恵器	坏小	—	—	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	
6	須恵器	坏小	—	—	(3.3)	ロクロナデ	ハラケズリ	
7	須恵器	蓋	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
8	石器	磨石	(8.0)	(5.0)	(3.7)	軽石製、全面を使用		
9	石製品	支脚	25.1	11.9	11.4	軽石製、カマド支脚		カマド検出
H4	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	甕	(17.2)	—	(17.4)	ミガキ	ハケ・歯面波状文・歯面縞状文・ミガキ	I区
2	弥生土器	壺	—	9.5	(15.8)	ナデ	ハラミガキ	初に使用
3	弥生土器	甕	—	4.7	(4.0)	ミガキ	ミガキ	I区
4	石材	一	3.5	4.6	1.9	結晶質石灰岩の破片		混入の可能性あり
5	石器	磨石	11.0	8.0	4.3	表面被熱による割れあり		伊
H6	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(13.6)	(6.0)	3.9	ハラミガキ	ロクロナデ・底部回転系切	No2. カマド
2	土師器	坏	—	(5.4)	(1.5)	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転系切	I区
3	土師器	坏	—	5.5	(1.1)	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転系切	II区
4	土師器	坏	—	—	(2.5)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・墨書	II区
5	土師器	坏	—	(5.2)	(1.3)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・墨書	カマド
6	土師器	坏	—	5.2	(2.0)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転系切	I区
7	土師器	碗	—	(8.8)	(2.0)	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転系切・付高台	I区
8	土師器	坏小碗	—	—	(2.1)	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・墨書	カマド
9	土師器	坏小碗	—	—	(2.5)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・墨書	II区
10	土師器	甕	(19.8)	—	(15.0)	ハラナデ	ロクロナデ・ハラケズリ	カマド
11	土師器	甕	(2.4)	—	(12.0)	ロクロナデ	ロクロナデ・ハラケズリ	カマド
12	土師器	甕	—	8.9	(2.5)	ナデ	ハラケズリ	カマド
13	須恵器	有台坏	—	(9.2)	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ・付高台	I区
14	須恵器	突帯付壺	—	—	(7.7)	叩き・ロクロナデ	叩き・ロクロナデ	カマド
15	緑釉陶器	碗	—	—	(1.3)	ロクロナデ・緑釉	ロクロナデ・緑釉	I区
16	石製品	不明	5.9	4.7	0.9	片断。板状で左側面の一部に研磨痕		
17	石器	磨散石	10.4	7.7	3.0	表面に磨耗痕、縁辺部に敲打痕		No1
H7	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(11.6)	—	(2.8)	ナデ	ロクロナデ	
2	土師器	坏	—	(5.5)	(1.9)	ロクロナデ・黒色処理	ロクロナデ・ケズリか	
H9	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(14.4)	(14.4)	(4.0)	ナデ	ハラケズリ	カマド
2	土師器	坏	(11.8)	(12.0)	(3.2)	ナデ	ハラケズリ	II区
3	土師器	坏	(13.6)	(12.8)	4.1	ミガキ	ハラケズリ	IV区
4	土師器	坏	—	—	(5.3)	ナデ	ハラケズリ	I・II区
5	土師器	坏	—	—	(4.5)	暗文	ハラケズリ・ミガキ	IV区
6	土師器	坏	(14.4)	(14.4)	(3.6)	ミガキ・黒色処理	ハラケズリ	I区・I区場方
7	土師器	坏	(12.6)	(12.2)	(4.1)	ミガキ・黒色処理	ハラケズリ	II区
8	土師器	坏	—	(7.2)	(1.4)	暗文	ハラケズリ・ミガキ	IV区、甲斐型坏
9	土師器	坏	13.0	6.4	4.0	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転系切	IV区
10	土師器	坏	—	5.4	(1.9)	暗文・黒色処理	ミガキ・底部回転系切	II区

第7表 遺物観察表 3

H9	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
11	土師器	坏	12.6	5.1	4.2	ナデ	ロクロナデ・底部回転糸切 墨書2箇所(作「寸」か)	Ⅱ・Ⅳ区
12	土師器	皿	(12.2)	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
13	土師器	碗	14.4	7.2	7.0	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切・ 付高台	Ⅰ区
14	土師器	高坏	(14.3)	—	(5.9)	ミガキ・黒色処理	ハラケズリ	Ⅳ区、Ⅰ・Ⅳ区堀方
15	土師器	甕	(22.2)	—	(21.2)	ナデ・ミガキ	ハラケズリ・ミガキ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区
16	土師器	甕	(15.4)	—	(8.2)	ミガキ	ミガキ	Ⅳ区
17	土師器	甕	(13.8)	—	(7.7)	ナデ	ハラケズリ	Ⅳ区
18	土師器	甕	(27.0)	—	(13.0)	ナデ	ハラケズリ	Ⅲ区
19	土師器	甕	(23.4)	—	(7.6)	ハラナデ	ハラケズリ	Ⅰ・Ⅳ区
20	土師器	甕	(13.4)	—	(9.5)	ナデ	ハラケズリ・表面磨耗	Ⅳ区
21	土師器	甕	(22.2)	—	(11.8)	ナデ	ナデ・ミガキ	Ⅳ区
22	土師器	甕	(22.2)	—	(12.6)	ハラナデ	ハラケズリ	Ⅱ・Ⅳ区
23	土師器	甕	(23.8)	—	(6.4)	ナデ	ハラケズリ	Ⅰ・Ⅳ区
24	土師器	甕	(21.2)	—	(3.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅳ区
25	土師器	甕	(20.4)	—	(6.6)	ハラナデ	ハラケズリ	Ⅲ区
26	土師器	甕	—	7.0	(16.9)	ミガキ	ハラケズリ・ミガキ	Ⅱ・Ⅳ区
27	土師器	甕	—	(6.8)	(16.4)	ナデ	ハラケズリ	Ⅰ・Ⅱ区
28	土師器	甕	—	4.9	(1.9)	ハラナデ	ハラケズリ	Ⅱ区
29	土師器	甕	—	4.6	(2.9)	ナデ	ハラケズリ	Ⅱ区
30	須恵器	蓋	(15.0)	—	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ・天井部回転ハ ラケズリ	カマド・カマド堀方
31	須恵器	蓋	17.0	—	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ・天井部回転ハ ラケズリ	Ⅱ区
32	須恵器	高坏	(15.0)	—	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
33	須恵器	甕	(12.0)	—	(4.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
34	須恵器	壺	—	(8.8)	(7.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
35	弥生土器	甕	(13.6)	—	(7.9)	ミガキ	柳掻波状文・柳掻康状文	Ⅰ区
36	弥生土器	鉢	(8.2)	—	(2.3)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩・2箇所穿孔	Ⅰ区
37	弥生土器	鉢	—	3.8	(2.4)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	Ⅰ区堀方
38	弥生土器	高坏小	—	—	(2.2)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	Ⅳ区
39	石製品	加工剥片	2.40	2.25	0.45	片岩剥片。全体に擦痕。石製模造品等の未成品か		Ⅱ区
40	石器	敲石	10.2	5.8	3.8	両端部に敲打痕		Ⅳ区
41	石器	編物石小	10.3	3.7	2.2			Ⅳ区
42	石器	編物石小	10.7	6.0	3.2			Ⅳ区
43	石器	敲石	14.2	14.0	4.5	縁切に敲打痕		No2
H10	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	蓋	(13.8)	—	(2.1)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	
2	土師器	坏	—	—	(2.6)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	
3	土師器	坏	—	—	(2.8)	ミガキ・黒色処理	ミガキ	
4	土師器	坏	(11.6)	—	(3.3)	ロクロナデ・暗文	ロクロナデ	
5	土師器	坏	(13.6)	—	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
6	土師器	甕	—	(4.4)	(6.1)	ハラナデ	ハラケズリ	
7	須恵器	蓋	(15.0)	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ・天井部回転ハ ラケズリ	
8	須恵器	坏	(14.0)	—	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	
9	須恵器	坏	(13.6)	(5.8)	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	
10	須恵器	坏	—	6.8	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	
11	須恵器	壺	—	9.1	(13.0)	ロクロナデ・自然軸	ロクロナデ・底部回転ハラ ケズリ・付高台	
H11	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	12.4	5.8	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	No5
2	土師器	坏	(12.6)	5.2	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	No4
3	土師器	坏	12.6	6.0	3.4	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切・ 墨書	No9、H11-P2
4	土師器	坏	(13.8)	(7.4)	3.7	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区

第8表 遺物観察表4

H11	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
5	土師器	坏	—	—	(1.9)	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	H11-P2
6	土師器	坏	—	6.9	(3.2)	暗文・黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切、墨書	カマド屋方
7	土師器	坏	12.9	5.6	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	I区
8	土師器	坏	12.3	5.8	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	No2
9	土師器	坏	12.8	5.3	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	No1
10	土師器	坏	12.6	5.5	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	No3
11	土師器	碗	(14.4)	—	(4.8)	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ	カマド屋方
12	土師器	鉢	—	6.2	(4.8)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	No8
13	土師器	壺	—	8.6	(9.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ、底部回転糸切、ヘラケズリ	No7
14	土師器	甕	—	7.3	(8.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	H11-P2、IV区
15	土師器	甕 (21.4)	—	—	(12.2)	ヘラナデ	ヘラナデ	No6
16	土師器	甕	—	—	(24.3)	ヘラナデ、ハケナデ	ヘラケズリ	No6
17	土師器	甕小	—	—	(2.9)	ナデ	ナデ、墨書	IV区
18	須恵器	蓋	(12.6)	—	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	III区
19	灰軸陶器	瓶	—	(7.6)	(2.6)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、付高台、灰軸	I区
H12	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	縄文土器	鉢	—	—	(1.8)		沈瀬・縄文RL	I区
2	土師器	甕	20.5	4.6	28.5	ヘラナデ	ヘラケズリ	I区
3	須恵器	坏	(13.0)	(6.6)	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	II区
4	須恵器	坏	(13.9)	7.2	4.5	ロクロナデ、火障直	ロクロナデ、底部回転糸切、火障直	
5	須恵器	有台坏	15.5	10.0	6.9	ロクロナデ、火障直	ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、火障直	No1
6	石器	磨石	6.4	5.2	1.1	表裏に磨直		甕(2)内
H13	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	13.2	7.6	3.7	ミガキ・黒色処理	ナデ	
2	土師器	甕	(21.6)	—	(5.8)	ヘラナデ	ヘラケズリ	
3	土師器	甕	(22.2)	—	(14.7)	ヘラナデ	ヘラケズリ	
4	須恵器	坏	13.0	6.7	4.0	ロクロナデ、火障直	ロクロナデ、底部ヘラ切、火障直	No1
H13	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	13.2	6.3	3.6	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	No2
2	土師器	坏	(12.6)	(5.8)	4.1	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	IV区
3	土師器	坏	(12.8)	(5.2)	4.3	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ、ヘラケズリ	I・IV区
4	土師器	坏	(12.0)	6.4	3.3	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	No3
5	土師器	坏	(15.0)	—	(4.2)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	II区
6	土師器	坏	(12.4)	—	(3.8)	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ	IV区
7	土師器	坏	(15.0)	—	(3.2)	ミガキ・暗文小・黒色処理	ロクロナデ	II区
8	土師器	坏	(12.6)	—	(3.6)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	IV区・P6
9	土師器	碗	—	(7.8)	(2.0)	ミガキ・暗文・黒色処理	ロクロナデ、付高台	II区
10	土師器	坏小碗	—	—	(1.6)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ、墨書	III区
11	土師器	甕	—	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
12	土師器	甕	—	—	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	屋方
13	土師器	甕	(25.8)	—	(8.0)	ハケナデ	ナデ、ヘラケズリ	IV区
14	灰軸陶器	皿	(13.4)	—	(1.9)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸	II区
15	灰軸陶器	皿	(14.4)	—	(2.2)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸	II区
16	灰軸陶器	碗	—	7.6	(1.8)	ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、灰軸	ロクロナデ、灰軸	IV区
17	鉄製品	牵引金具	(9.5)	(3.6)	(0.4)	一部欠損。木質残存		No1
18	鉄製品	筒状製品	4.5	1.5	1.5	宛形か、上部は中空、下部は閉じる		
19	鉄製品	鉄滓	2.4	3.0	1.7			II区
20	鉄製品	鉄滓	3.1	3.5	1.5			II区

第8表 遺物観察表 5

H15	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	須恵器	坏	(12.4)	(7.8)	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラケズリ	堀方
2	石器	砥石	(12.5)	(7.4)	(4.7)	表面が砥面、下部から裏面を欠損		No1
H16	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	—	—	(3.5)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	I区
2	弥生土器	高坏	—	—	(1.8)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	III区堀方
3	須恵器	坏	(19.4)	—	(5.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
4	須恵器	有台坏	(14.8)	(9.2)	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転ヘラケズリ・付高台	カマド
5	石製品	支脚	18.4	10.4	8.0	軽石製カマド支脚、焔熱		No1(カマド)
6	鉄製品	不明	5.1	1.9	0.9	中央に半円形の突起		カマド
H17	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	高坏	(25.2)	—	(6.7)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	
2	弥生土器	高坏	(16.4)	—	(4.2)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	
3	弥生土器	高坏	—	15.9	(10.2)	ハケ・ヘラナデ	ミガキ・赤彩	No15
4	弥生土器	壺	(24.8)	—	(8.4)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	No2
5	弥生土器	壺	—	—	(14.6)	剥離	ハケ・ミガキ・羽状の斜赤文	No15
6	弥生土器	壺	—	—	(8.4)	ハケ	ハケ・ミガキ・赤彩・羽状の斜赤文	No14
7	弥生土器	甕	(12.0)	—	(6.2)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩・柳葉状文	No7
8	弥生土器	甕	(8.0)	—	(5.1)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩・柳葉状文	No15
9	弥生土器	甕	—	—	(3.0)	ミガキ	柳葉状文	
10	弥生土器	甕	(13.0)	—	(7.2)	ミガキ	柳葉状文・柳葉状文	No15
11	弥生土器	甕	(16.8)	—	(12.2)	ミガキ	ミガキ・柳葉状文・柳葉状文	
12	弥生土器	甕	(21.4)	—	(22.0)	ハケ・ミガキ	ハケ・ミガキ・柳葉状文・柳葉状文	No3・6
13	弥生土器	甕	(13.6)	—	(7.3)	ミガキ	柳葉斜赤文・柳葉状文	
14	弥生土器	甕	—	—	(7.0)	ミガキ	柳葉斜赤文・柳葉状文	
15	弥生土器	甕	—	—	(11.9)	ミガキ	ミガキ・柳葉斜赤文	
16	弥生土器	台付甕	—	(8.2)	(4.1)	ナデ	ミガキ	
17	弥生土器	甕	—	5.9	(1.9)	ミガキ	ハケ・ミガキ	No1
18	弥生土器	甕	—	4.9	(4.0)	ミガキ	ハケ・ミガキ	
19	弥生土器	甕	—	(6.0)	(4.5)	ミガキ	ミガキ	
20	弥生土器	甕	—	7.9	(6.1)	ミガキ	ミガキ	No13
21	弥生土器	甕	—	(5.6)	(2.9)	ミガキ	ミガキ・穿孔	
H18	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	甕	—	(8.4)	(7.7)	ミガキ	ミガキ	
Ta1	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	須恵器	坏	(13.8)	(7.4)	3.6	ロクロナデ、火摩痕	ロクロナデ・底部回転糸切、火摩痕	II区
2	土師器	坏小	—	—	(2.1)	ミガキ・黒色地埋	ロクロナデ・墨書	I区
3	鉄製品	角釘	(3.7)	(0.6)	(0.7)	先端欠損		I区
Ta2	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(16.6)	—	(2.0)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	
2	弥生土器	鉢	—	—	(4.4)	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	
3	弥生土器	鉢	—	(3.6)	(3.3)	ミガキ・赤彩	ミガキ(底部まで)・赤彩	
4	弥生土器	高坏	(19.4)	—	(2.4)	ロクロナデ・赤彩	ロクロナデ・赤彩・突起有	
5	弥生土器	高坏	—	—	(3.0)	坏部:ミガキ・赤彩 脚部:ハケ	ミガキ・赤彩	
6	弥生土器	壺	—	—	(6.8)	ミガキ	ミガキ	

第10表 遺物観察表6

Ta3	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	須恵器	坏	(12.8)	—	(3.7)	ロクロナデ、火摩痕	ロクロナデ、火摩痕	
2	須恵器	坏	(15.4)	(10.8)	(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
D5	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	灰釉陶器	甗	—	—	(2.3)	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	
D7	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(14.2)	(8.2)	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	
2	須恵器	蓋	(19.4)	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
3	須恵器	甕	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、縹緋状文	
4	灰釉陶器	皿	(16.4)	—	(1.3)	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	
P2	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(17.0)	—	(3.7)	ナデ、黒色処理	ロクロナデ	
2	土師器	坏	(12.4)	4.9	3.3	ミガキ、繪文・黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	
遺構外	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
1	弥生土器	甕	—	—	(7.0)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	III 4Gr
2	弥生土器	甕	—	—	(3.0)	ハケ、ミガキ	縹緋状文	III 3Gr
3	土師器	坏	(12.2)	4.9	4.2	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切	II 14Gr
4	土師器	坏	(15.6)	—	(2.3)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ	II 10Gr
5	土師器	坏	—	—	(3.4)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	I 14Gr
6	土師器	坏	—	—	(2.7)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ	II 2Gr
7	土師器	甕	—	—	(3.5)	ナデ	ハラケズリ	II 13Gr
8	土師器	甕	—	(14.0)	(5.6)	ナデ	ナデ	II 5Gr
9	須恵器	坏	(14.0)	(8.2)	4.0	ロクロナデ、火摩痕	ロクロナデ、底部回転糸切、火摩痕	I 14Gr
10	須恵器	坏	(14.0)	(7.6)	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	II 16Gr
11	須恵器	坏	—	(8.0)	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転ハラケズリ、ハラ記号有	III 6Gr
12	須恵器	有台坏	(16.6)	(12.5)	4.4	ロクロナデ、ハケ	ロクロナデ、底部回転ハラケズリ、付高台	II 15・16Gr
13	須恵器	蓋	—	—	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、天井部回転ハラケズリ	II 15Gr
14	須恵器	高坏	(18.6)	—	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、坏下部回転ハラケズリ	II 15Gr
15	須恵器	甕	—	—	(3.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	II 15Gr
16	須恵器	甕	—	(9.0)	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、付高台	II 15Gr
17	石器	石織	(1.10)	1.25	0.35	黒曜石、先端欠損		IV 4Gr
18	礎		5.7	2.4	1.2	片岩円礎		II 6Gr
19	鉄製品	不明	(2.8)	(1.0)	(1.0)	両端欠損		II 4Gr
20	鉄製品	角釘	(5.9)	(0.8)	(0.6)	先端折れて欠損		II 7Gr
21	鉄製品	不明	(6.8)	(1.7)	(0.9)	両端欠損		III 3Gr

第11表 遺物観察表7

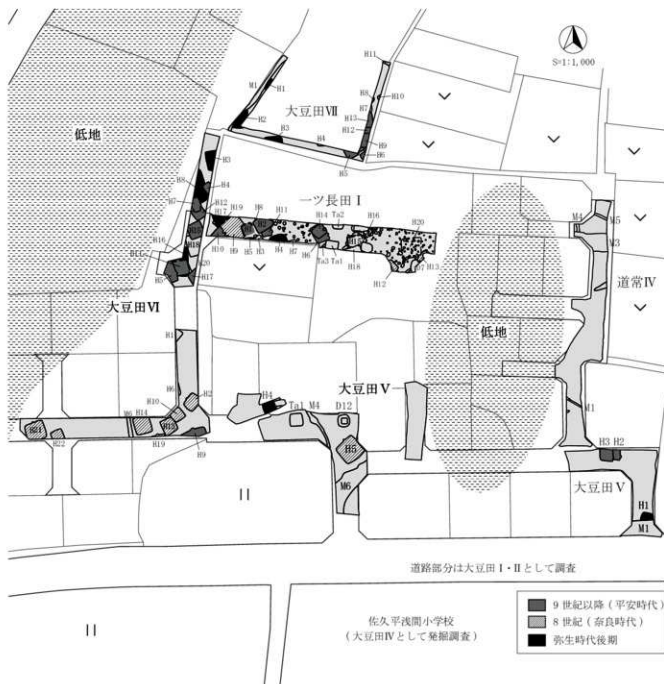
第IV章 まとめ

本調査区では弥生時代後期と奈良・平安時代に属する20軒の住居址が検出された。奈良・平安時代では、概ね奈良時代に該当する8世紀代と考えられるものと、平安時代にあたる9世紀以降のものに分けられる。第35図に示す周辺調査区を含めた住居の分布状況を確認し、まとめたい。

弥生時代後期の住居址は本調査区西側から大豆田VI北側に集中しており、主軸方向も同一である。これらより西側は試掘調査から低地であると考えられるため、大豆田VIIから大豆田VのH4付近にかけて一つのまとまりとして捉えられるだろうか。大豆田V南東のH1については、大豆田I・II・IVにおいて確認されている一群に属すると考えられる。

奈良時代には住居址の分布範囲が広がるが、大豆田VI南西側に多い。切り合うものは少なくカマドは北西側に位置する。本調査区と道常IVの間は低地となり、黒色土の堆積が確認される。9世紀以降は分布が北側に移るのか、本調査区西側から大豆田VII付近で切り合うものが多い。主軸は同一だがカマドの位置が北東側に変わるものが多いようである。東側の低地を挟んで大豆田Vでも住居址が確認される。本調査区周辺では南側の大豆田IVと比べ、掘立柱建物址が少ないようである。

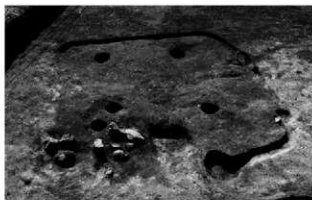
中世の遺構は、竪穴状遺構や調査区東側の小ピット群が該当する。大豆田VでもTa1や溝址、井戸址(D12)が検出されており、この一帯を居住域と想定できるだろうか。



第35図 周辺の住居址分布図



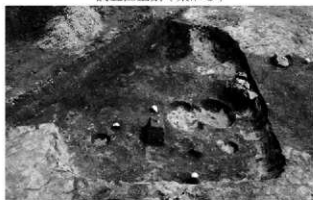
調査区全景（東から）



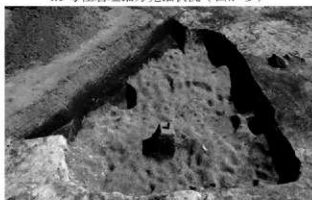
H1 号住居址完掘状況（東から）



H1 号住居址掘方完掘状況（西から）



H2 号住居址完掘状況（南東から）



H2 号住居址掘方・H8 号住居址完掘状況（南東から）



H3 号・H5 号住居址完掘状況（北東から）



H4 号住居址完掘状況（北から）



H4 号住居址炉址検出状況（北から）



H4 号住居址炭化物検出状況（北から）



H6 号住居址完掘状況（北から）



H7 号住居址完掘状況（北から）



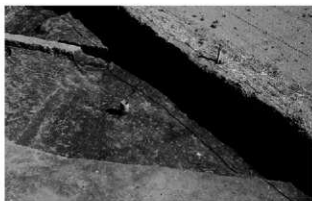
H9 号住居址完掘状況（東から）



H9 号住居址カマド完掘状況（南東から）



H9 号住居址掘方完掘状況（東から）



H10 号住居址完掘状況（西から）



H11号住居址完掘状況（西から）



H11号住居址カマド完掘状況（西から）



H12号住居址完掘状況（北東から）



H13号住居址完掘状況（西から）



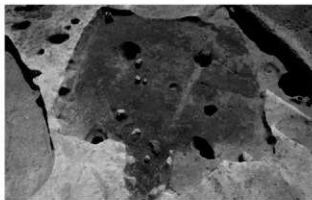
H14号住居址完掘状況（東から）



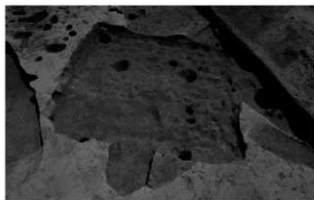
H14号住居址掘方完掘状況（東から）



H15号住居址完掘状況（南から）



H16号住居址完掘状況（西から）



H16号住居址掘方完掘状況（西から）



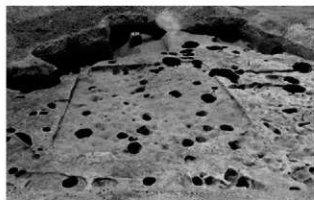
H17号住居址完掘状況（東から）



H18号住居址完掘状況（北から）



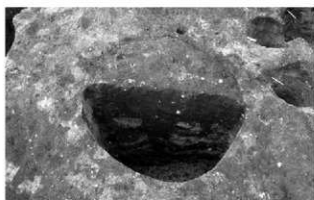
H17掘方・H19完掘状況（東から）



H20号住居址掘方完掘状況（北から）



F1号掘立柱建物址完掘状況（南東から）



P100断面（南から）



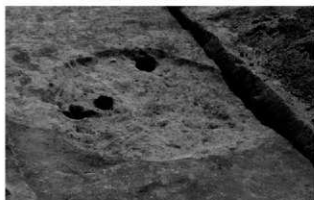
Ta1号竪穴状土坑完掘状況（北から）



Ta2号堅穴状土坑完掘状況（南から）



Ta3号堅穴状土坑完掘状況（北から）



D4号土坑完掘状況（東から）



D7号土坑完掘状況（南から）



D5号土坑完掘状況（南から）

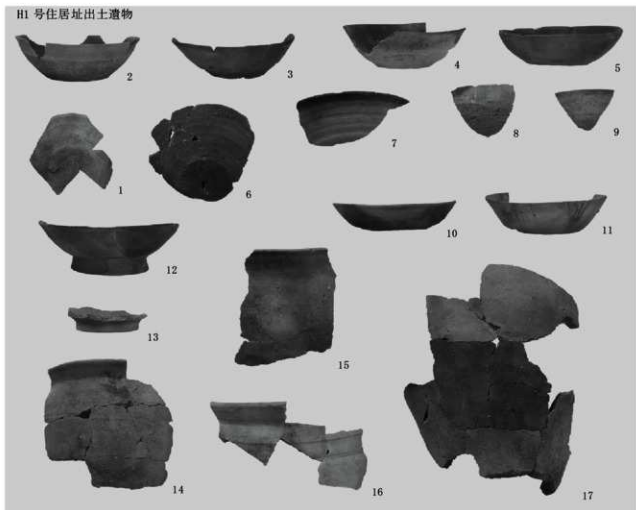


M2号溝址完掘状況（南から）



II 106r 付近ピット完掘状況（南から）

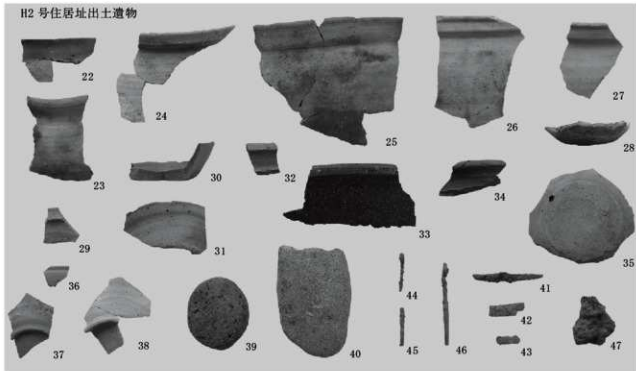
H1 号住居址出土遺物



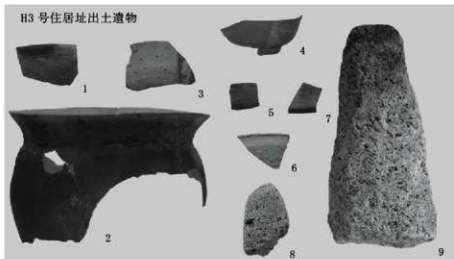
H2 号住居址出土遺物



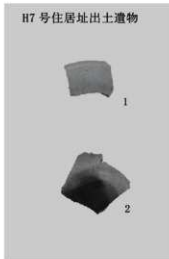
H2 号住居址出土遺物



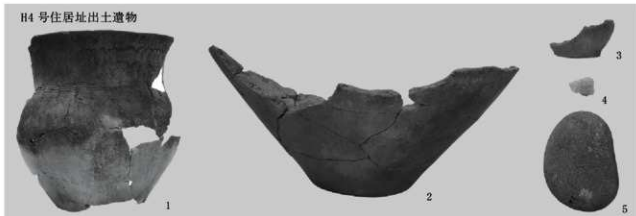
H3 号住居址出土遺物



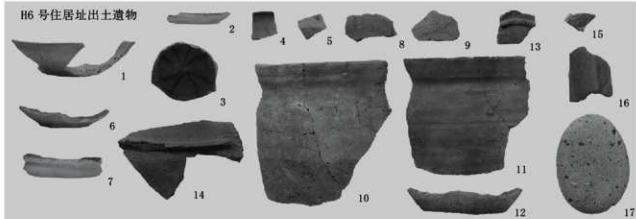
H7 号住居址出土遺物



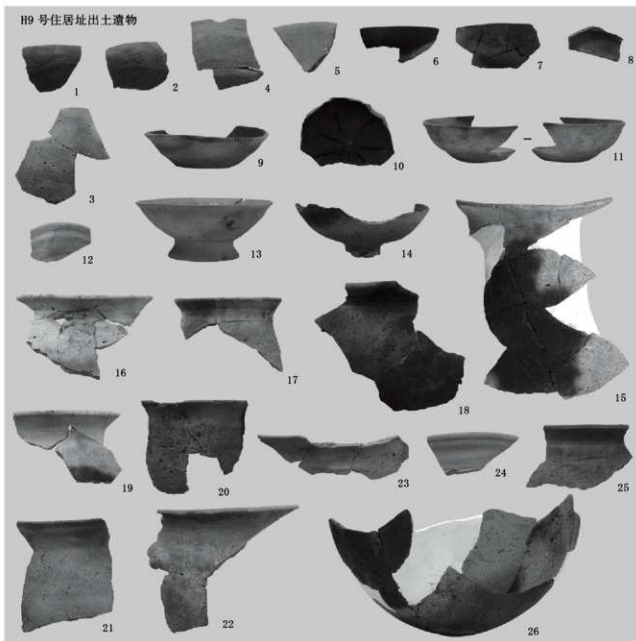
H4 号住居址出土遺物



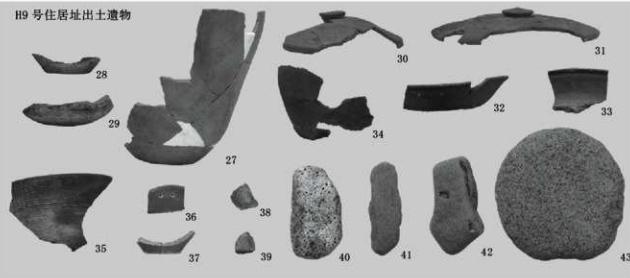
H6 号住居址出土遺物



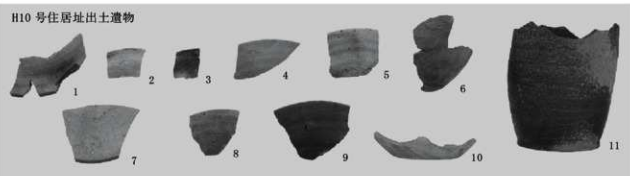
H9 号住居址出土遺物



H9 号住居址出土遺物



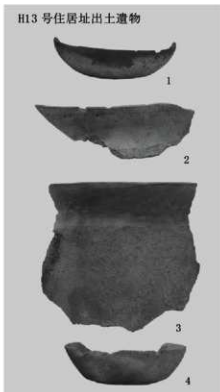
H10 号住居址出土遺物



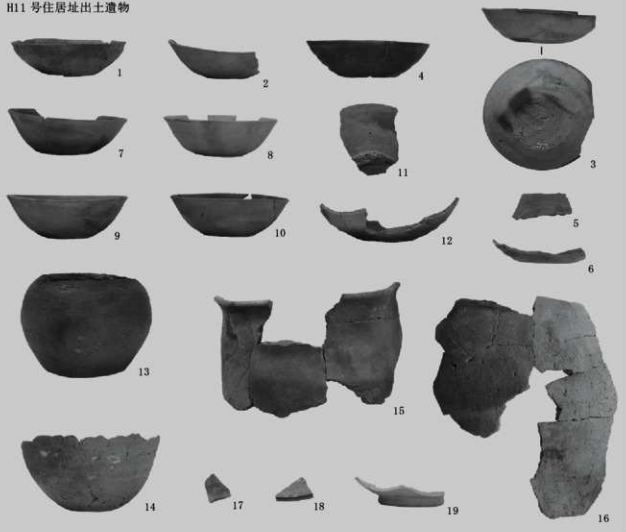
H12 号住居址出土遺物



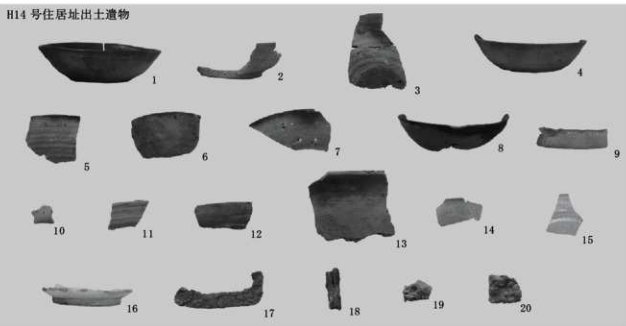
H13 号住居址出土遺物



H11 号住居址出土遺物



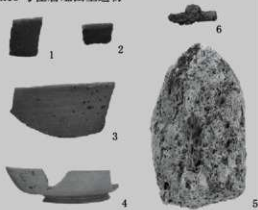
H14 号住居址出土遺物



H15 号住居址出土遺物



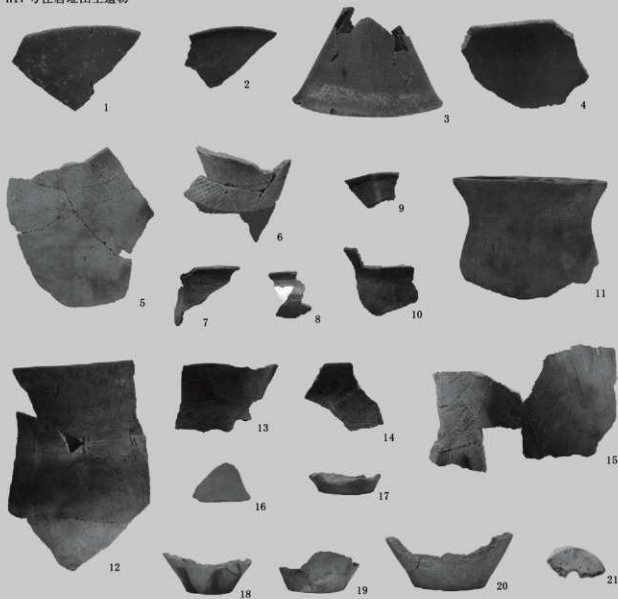
H16 号住居址出土遺物



H18 号住居址出土遺物



H17 号住居址出土遺物



D5号土坑
出土遗物



D7号土坑出土遗物



Ta1号竖穴状遗构出土遗物



Ta3号竖穴状遗构出土遗物



Ta2号竖穴状遗构出土遗物



P2出土遗物



遗构外出土遗物



報告書抄録

ふりがな	すぼうばたいせきぐん ひとつながたいせきいち							
書名	周防畑遺跡群 一ツ長田遺跡Ⅰ							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第292集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	令和5年(2023)3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 積 面 (㎡)	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
すぼうばたいせきぐん ひとつながたいせきいち 周防畑遺跡群 一ツ長田遺跡Ⅰ	さくしながとろ 佐久市長土呂 1729-3 他	20217	7	36° 28' 25"	138° 45' 86"	20200401 ～ 20200513	420	宅地 造成
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
周防畑遺跡群 一ツ長田遺跡Ⅰ	集 落 址	弥 生 時 代 奈良・平安時代	堅 穴 住 居 址 20軒 掘 立 柱 建 物 址 1棟 堅 穴 状 遺 構 3基 土 坑 6基 溝 址 1条 ピ ッ ト 166基	縄 文 土 器、弥 生 土 器、土 師 器、 須 恵 器、灰 輪 陶 器、緑 輪 陶 器、 石 器、石 製 品、鉄 製 品				
要 約	浅間山南麓の田切り台地末端部に展開する弥生時代後期から中世の集落跡の一部を調査した。弥生時代後期と奈良・平安時代の住居址が検出されたほか、掘立柱建物址や井戸址と考えられる土坑などが検出された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第292集

周防畑遺跡群 一ツ長田遺跡Ⅰ

令和5年(2023) 3月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所
〒385-0051 長野県佐久市中込 2913
Tel:0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限会社
